

竹の内地区産業廃棄物最終処分場に 関する住民説明会

平成29年2月17日(金)

宮 城 県

本日の説明会について

平成15年度以降,
県が行政代執行で処分場対策を実施(現在も継続)



平成19年3月に実施計画を策定(平成25年3月変更)
平成19年度以降は, 国の財政支援を得て, 支障除去対策を実施



平成28年度は実施計画を継続するか否かを判断する年



評価委員会の意見を聴いて, 今後の処分場対策の進め方を整理

説明の内容

- I 事案及び経緯
- II 産廃特措法と実施計画
- III モニタリング結果の概要
- IV 評価委員会の答申
- V 今後の処分場対策

I 事案及び経緯

- 1 事案の概要
- 2 生活環境保全上の支障
- 3 行政代執行
- 4 支障除去対策の検討
- 5 緊急対策

1 事案の概要

- 所在地：村田町大字沼辺字竹の内13他
- 種類：安定型産業廃棄物最終処分場
- 設置届出：平成2年8月6日
- 処理能力(最終)：埋立面積 $67,398\text{m}^2$
埋立容量 $354,435\text{m}^3$
- 推定埋立量：埋立面積 $87,557\text{m}^2$
埋立容量 $1,027,809\text{m}^3$
- 埋立終了届出：平成13年5月23日

2 生活環境保全上の支障

○処理基準に違反した埋立処分

- ・許可容量・許可区域を超えた埋立
- ・許可外廃棄物の埋立



○生活環境への影響

- ・有害ガス及び悪臭による日常生活への影響
- ・有害物質の拡散による地下水汚染のおそれ



3 行政代執行

平成2年12月 最終処分開始

平成3年11月～ 悪臭および水質に関する苦情が寄せられる

県では苦情に基づき調査し、事業者に指導を行い、対応

平成11年1月～ 悪臭苦情が頻発する

平成13年5月 埋立終了の届出

平成14年7月 事業者に対し、措置命令を発出

履行期間延長のうえ履行

平成15年3月以降 10回の措置命令を発出

処分場の管理者が不在となる等して、措置命令は履行されず

県が行政代執行を実施

4 支障除去対策の検討

平成16年3月～平成17年3月

村田町竹の内地区産業廃棄物最終処分場総合対策検討委員会

- 県が行ってきた各種環境調査に基づき処分場の現状評価を行い、健康影響に関する協議や対応策等の検討を行うことを目的として設置
- 生活環境保全上の支障又は支障のおそれ
 - 有害ガス(硫化水素)及び悪臭による支障又は支障のおそれ
 - 浸出水拡散による支障のおそれ
- 処分場の対策
 - 有害ガスおよび悪臭の発生抑制→緊急対策
 - 浸出水の拡散防止→恒久対策

平成17年9月

平成19年3月

委員会の提言

緊急対策工事を実施

処分場東側法面对策, 発生ガス処理施設設置など

特定支障除去等事業実施計画書策定

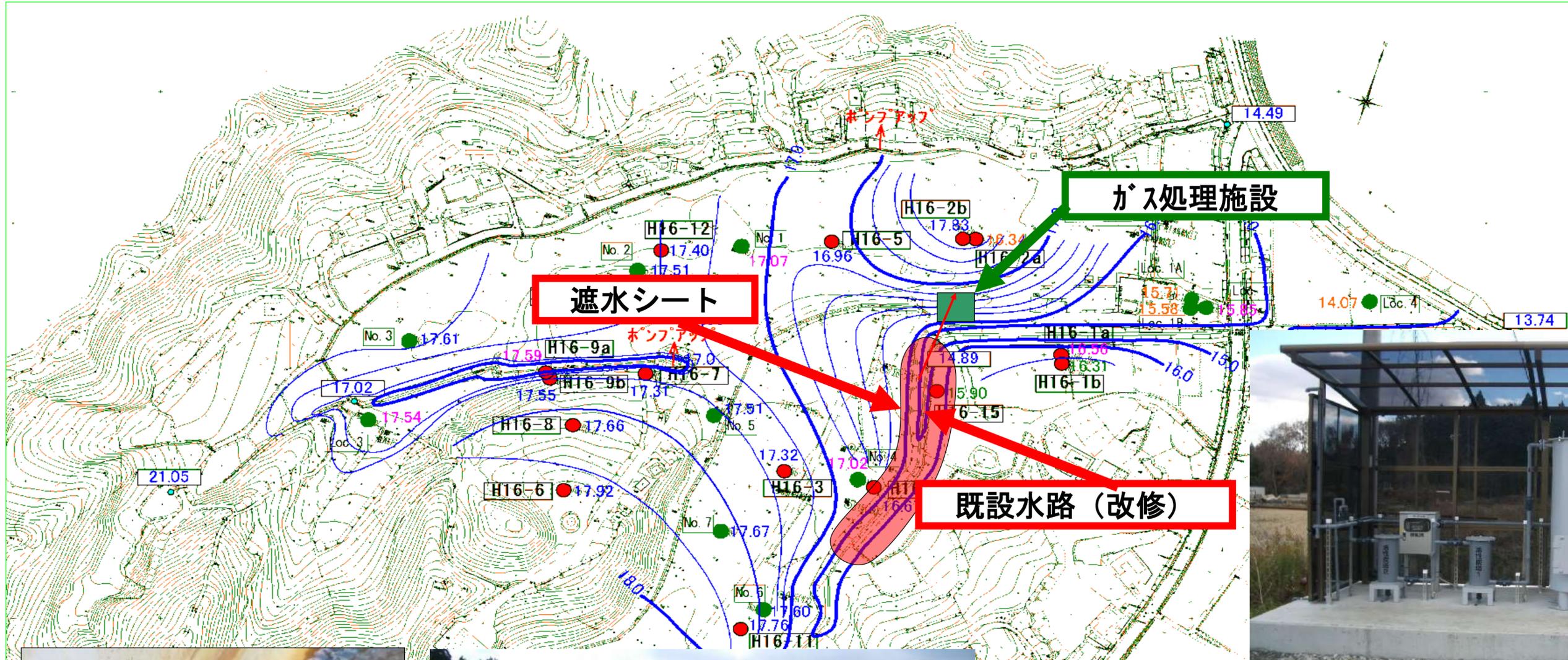
5 緊急対策

- 実施計画の策定に先行して、硫化水素などの有害ガス及び悪臭の発生抑制のため、緊急対策を実施(平成17年9月完了)
- 悪臭等が発生している東側法面付近において、対策を実施
 - 遮水シートによるガス放散防止
 - ガス処理施設の建設
 - 既設排水路の改修

【実績】

工事名	内容
排水施設設置	集水枘, 排水ポンプ, 配電工, 排水管
安全対策施設設置	立入防止柵, ネットフェンス用門扉, 立入禁止標識
法面对策	透水マット, 遮水シート, U型側溝, 既設側溝改良, 集水枘, 排水ポンプ
ガス処理施設設置	ガス吸引ファン, 脱硫塔, 活性炭吸着塔, 連結管路, 配電設備

5 緊急対策



<対策前>

<対策後>

Ⅱ 産廃特措法と実施計画

- 1 産廃特措法
- 2 産廃特措法に基づく実施計画の策定等
- 3 対策工フロー図
- 4 全体計画平面図
- 5 対策工スケジュール
- 6 雨水浸透防止対策
- 7 追加対策
- 8 浸出水拡散防止対策

1 産廃特措法

平成9年以前に不適正処分された産業廃棄物による生活環境保全上の支障を除去し問題の早期解決を図るために、都道府県等が行政代執行する支障除去対策に国が財政支援を実施

(1) 公布・施行

- ① 平成15年6月18日 公布・施行 (平成25年3月末に失効)
- ② 平成24年8月22日 改正法公布・施行(平成35年3月末に失効)

(2) 法律の骨子

- ① 環境大臣は支障除去等の推進に関する基本方針を定めること
- ② 都道府県等は実施計画について環境大臣に協議し、その同意を得ること

2 産廃特措法に基づく実施計画の策定等

(1) 当初の実施計画

平成19年3月に実施計画を策定（計画期間：H19～H24）

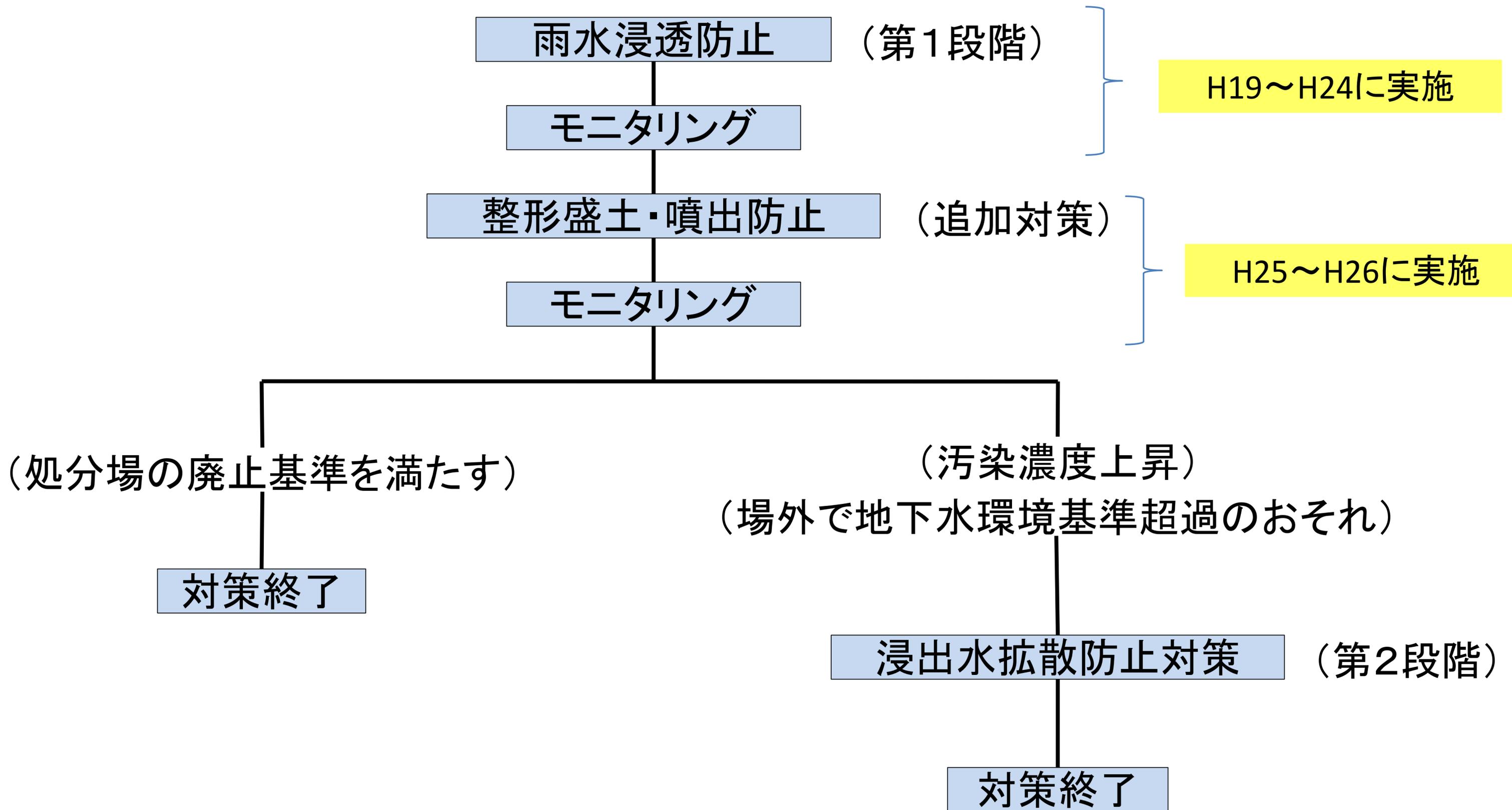
- ・ 雨水浸透防止対策
- ・ モニタリング
- ・ 浸出水拡散防止対策（汚染物質の拡散等を確認した場合）

(2) 実施計画の変更

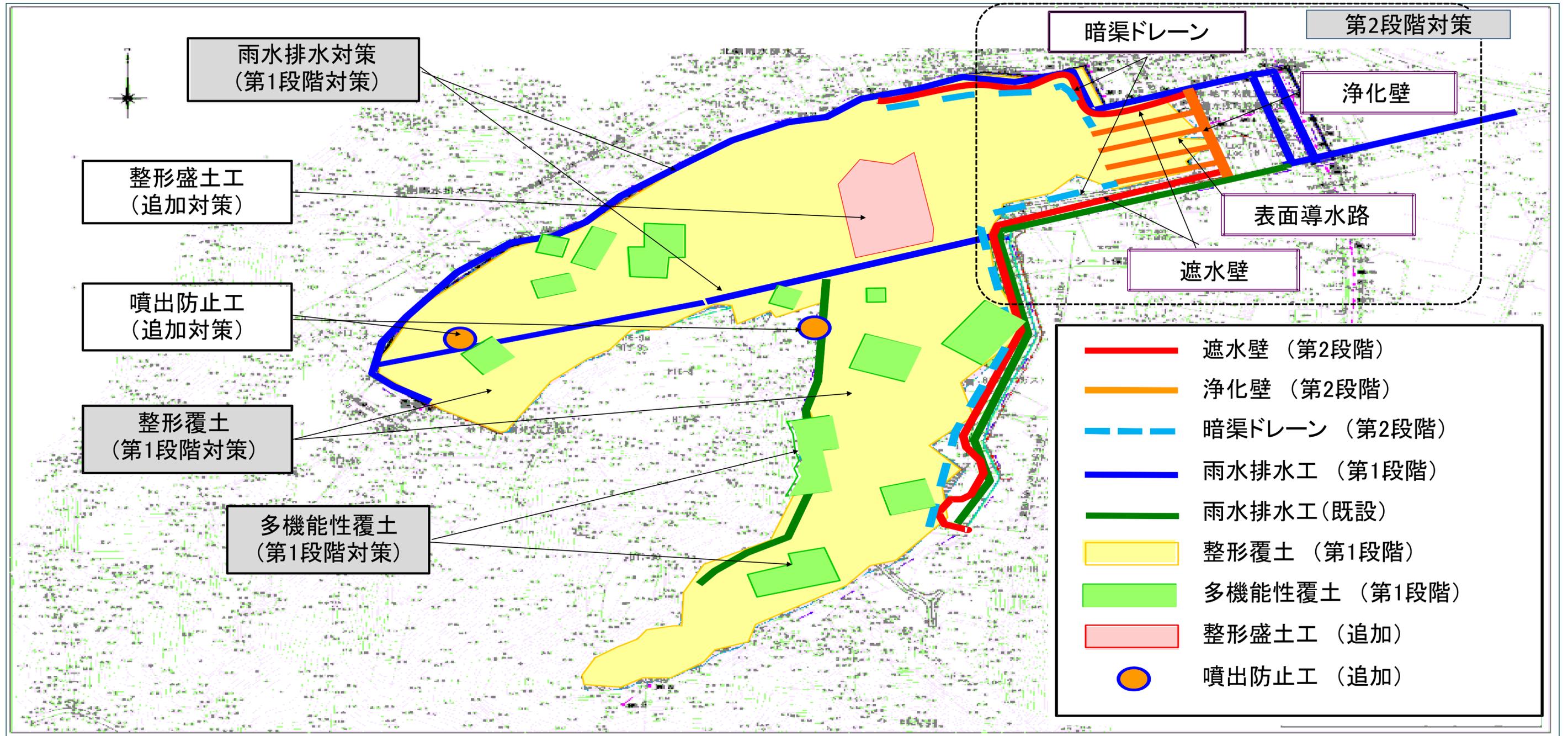
産廃特措法の改正（期限延長）を受けて、平成25年3月に実施計画を変更（計画期間：H19～H33）

- ・ 追加対策（整形盛土工，噴出防止工）
- ・ モニタリング
- ・ 浸出水拡散防止対策（汚染物質の拡散等を確認した場合）

3 対策工フロー図



4 全体計画平面図



※雨水浸透防止対策及び追加対策は施工済み

5 対策工スケジュール

対策区分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
①雨水浸透防止対策	—————							
②浸出水拡散防止対策		-----						
③モニタリング								
対策区分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
①雨水浸透防止対策								
②浸出水拡散防止対策		※						
③モニタリング								-----

※ ②の実施の判断は①の対策効果確認の後(H28年度)に行い、実施しない場合は計画終了とする。

6-1 雨水浸透防止対策（概要）

覆土整形工	適切な排水勾配を確保するため覆土整形工を実施（一部で、多機能性覆土を実施）
雨水排水工	場外からの雨水浸入防止と覆土表面水の排除のために排水路を整備
モニタリング設備工	周辺への浸出水拡散の有無や多機能性覆土の効果を確認するため、必要な施設の整備
防護柵工	処分場周囲にフェンスを設置
電気設備改修工	処分対策に必要な電気設備の改修

6-2 雨水浸透防止対策（実績）

覆土整形工	約70,000m ² （多機能性覆土6,600m ² を含む）
雨水排水工	町道側645m，農道側161m，場内339m
モニタリング設備工	モニタリングステーションの移設，観測井戸の改修
防護柵工	周囲フェンス1,114m
電気設備改修工	分電盤8面，配電盤1面，動力盤1面，電気配線一式

6-3 雨水浸透防止対策(実績)

周辺側溝



処分場内
覆土



<対策前>

<対策後>

7-1 追加対策(概要)

整形盛土工

平成23年3月の東北地方太平洋沖地震により覆土が沈下して雨水排除が低下した箇所を盛土整形し、適切な排水勾配を確保して雨水の迅速排除を促す。

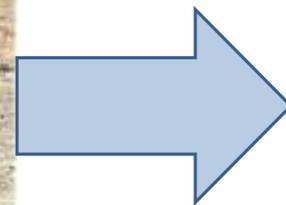
噴出防止工

噴出事象が発生している箇所にガス抜き設備を設置し、廃棄物層で発生したガスの滞留を抑制して大気放散を促す。

設置したガス抜き設備から排出されるガスを吸引ポンプでガス処理設備に導き、ガスに含まれる硫化水素を活性炭で吸着処理し、硫化水素を除去して大気放散する。

7-2 追加対策【整形盛土工】(実績)

項目	単位	数量
整形盛土範囲	m ²	4,192
種子吹き付け範囲	m ²	4,600



7-3 追加対策【噴出防止工】(実績)

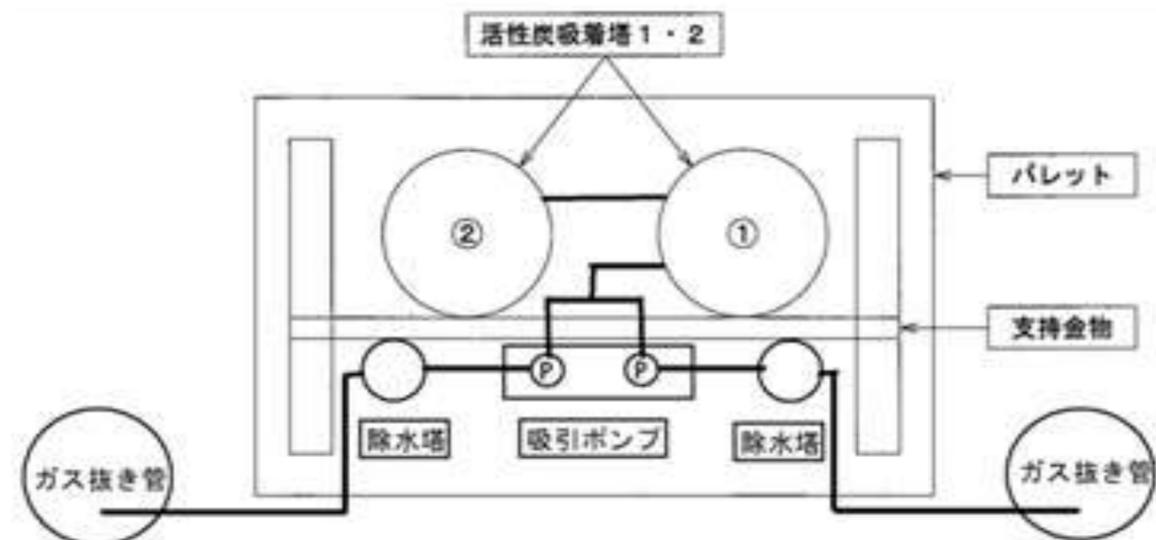
地点	総掘削 深長(m)	ストレーナ区間 (GL.-m)	井戸内径・材料	ガス処理方法
No.3a	4.0	0.4~4	Φ200mm・有孔塩ビ管	活性炭
No.3b	25.5	0.4~25	Φ200mm・有孔塩ビ管	
No.5a	6.0	0.4~6	Φ200mm・有孔塩ビ管	活性炭
No.5b	17.0	0.4~16	Φ200mm・有孔塩ビ管	



No.3

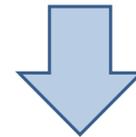


No.5

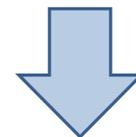


7-4 追加対策【噴出防止工】(実績)

工事後も観測井戸 (No.3, No.5) で噴出事象が発生



平成28年2月から、
観測井戸 (No.3, No.5) での水質調査を中止し、
ガス抜き管 (No.3b, No.5b) で水質調査を実施



以後、噴出事象は発生していない

8-1 浸出水拡散防止対策(概要)

遮水壁	<p>遮水性のあるソイルセメントなどによる地中連続壁を地下水の流れの下流側である処分場東側及び北側に難透水性地盤まで設置し、浸出水の拡散を防止するとともに汚染された保有水を浄化壁へ導水する。</p>
透過性反応 浄化壁	<p>浄化材(黒ぼく土又は活性炭)と砕石を混合した土柱の連続壁(透過性反応浄化壁)を処分場入口付近に難透水性地盤まで設置し、浄化壁を通過するときに浄化材により汚染物質を吸着・浄化する。</p> <p>また、流速が早い浅層は、トレンチタイプ(帯状の溝)の浄化壁を増設し、対処する。</p>
暗渠ドレーン・ 表面導水路	<p>遮水壁設置により大雨時に埋立地内部の地下水位が上昇し、浸出水が越流することが懸念されることから、暗渠ドレーンを遮水壁内側上部に設置するとともに浄化壁の前面に表面導水路を設置し、地下水が上昇したときに浄化壁まで地下水を導いて水位の上昇や越流を防止する。</p> <p>浄化壁の後側にも暗渠ドレーンを設置し、一定の流速が保たれるようにして越流を防止する。</p>

8-2 浸出水拡散防止対策（実施要件）

浸出水拡散防止対策の実施要件

場内

保有水（浸透水）

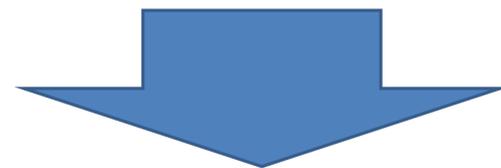
汚染濃度が上昇



場外

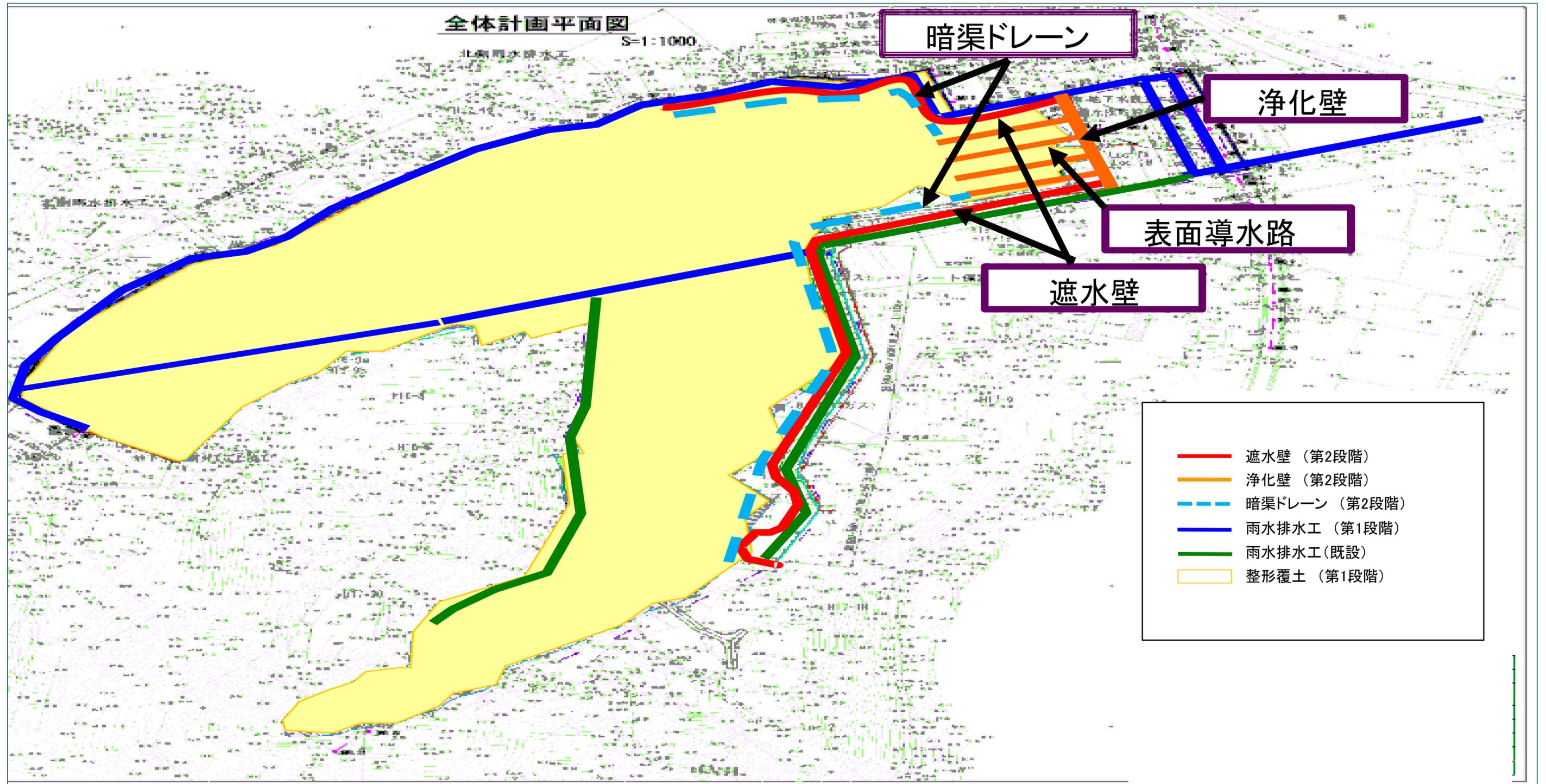
周辺地下水

地下水環境基準を上回る物質が
継続的に確認されるおそれが高い
と判断される状況



浸出水拡散防止対策を実施する

8-3 浸出水拡散防止対策(計画平面図)



Ⅲ モニタリング結果の概要

- 1 モニタリング計画
- 2 硫化水素連続調査
- 3 浸透水及び地下水水質調査
- 4 発生ガス等調査
- 5 地中温度調査

1-1 モニタリング計画

○目的

処分場に係る処分場内廃棄物による周辺の生活環境への影響を把握し、地域住民の安全安心を確保するために、モニタリングを実施する。

○調査事項

- (1) 処分場による生活環境保全上の支障の有無の把握
- (2) 処分場内廃棄物により汚染された浸透水等の地下水への拡散又はそのおそれの把握
- (3) 処分場の状況の把握

1-2 モニタリング計画

調査名	項目	地点数	頻度
大気環境調査	13項目	2	年4回
硫化水素連続調査	硫化水素	2	通年
水質調査	浸透水	36項目	年4回※
	地下水	19項目	年4回※
	放流水	32項目	年4回※
	河川水	23項目	年4回
発生ガス等調査	発生ガス	7項目	月1回
地中温度調査	温度	22	年4回
地下水位調査	地下水位, 降雨量	21	通年
多機能性覆土状況調査	硫化水素	26	年1回
地表ガス調査	硫化水素	5	年1回

※一部の項目は年1~2回

2-1 硫化水素連続調査（概要）

- 硫化水素の処分場周辺の影響を把握するため、平成14年度から処分場敷地境界2地点及び村田第二中学校敷地内1地点の計3地点で連続測定を実施。
- 平成26年度以降は、処分場敷地境界1地点及び村田第二中学校敷地内1地点の2地点に変更。

2-2 硫化水素連続調査(概要)

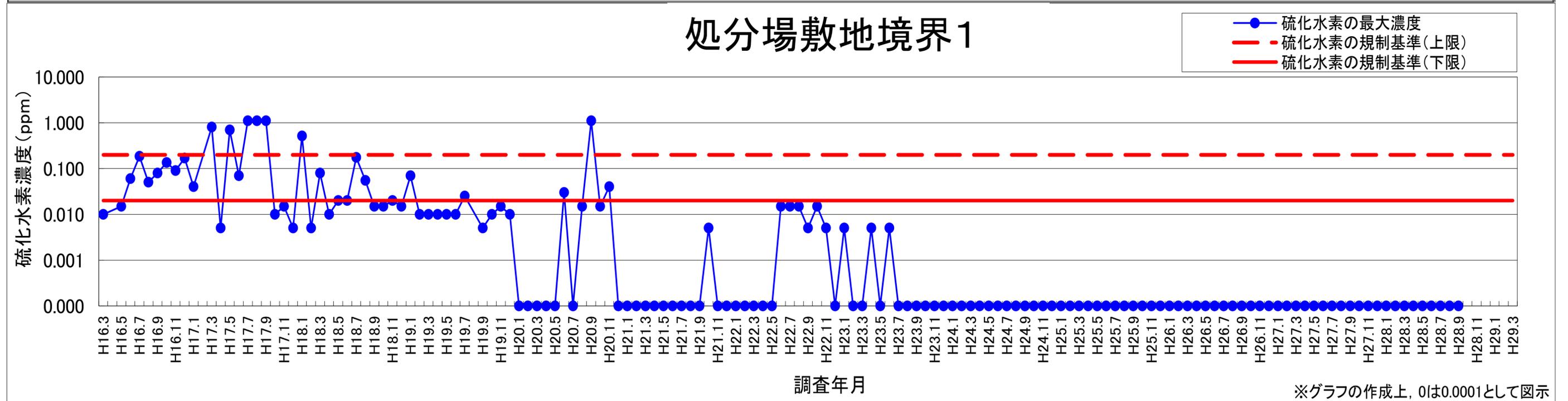
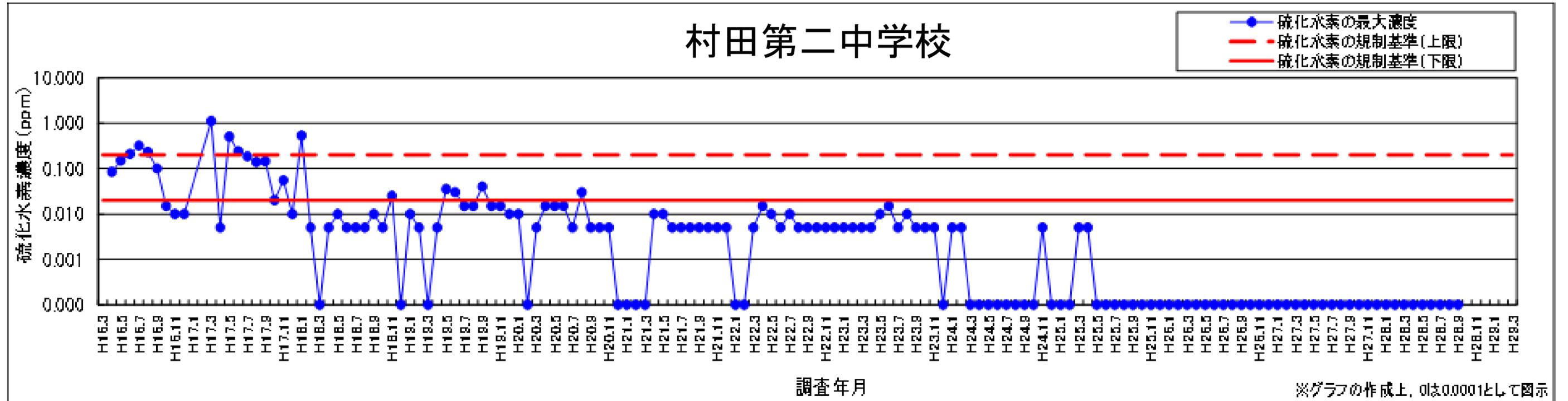


2-3 硫化水素連続調査(結果)

- 平成17年9月の緊急対策実施前は、1.1ppmを観測するなど0.02ppmを超過する状況が頻繁に確認。
- 緊急対策の実施により、0.02ppmを超過する頻度は低下。
- 雨水浸透防止対策が完了した平成21年度以降は、**目標値(0.02ppm)**を満足する状況が継続。

濃度(ppm)	症状等	濃度(ppm)	症状等
0.0005	人のおいの認知閾値	0.02~0.2	悪臭防止法に基づく 大気濃度規制値
1~5	不快感が強い	10	労働安全衛生法許容限度 (作業中止の目安)
20~100	目に炎症	100~200	臭覚麻痺
200~300	1時間で急性中毒	400~700	30分~1時間で生命に危機

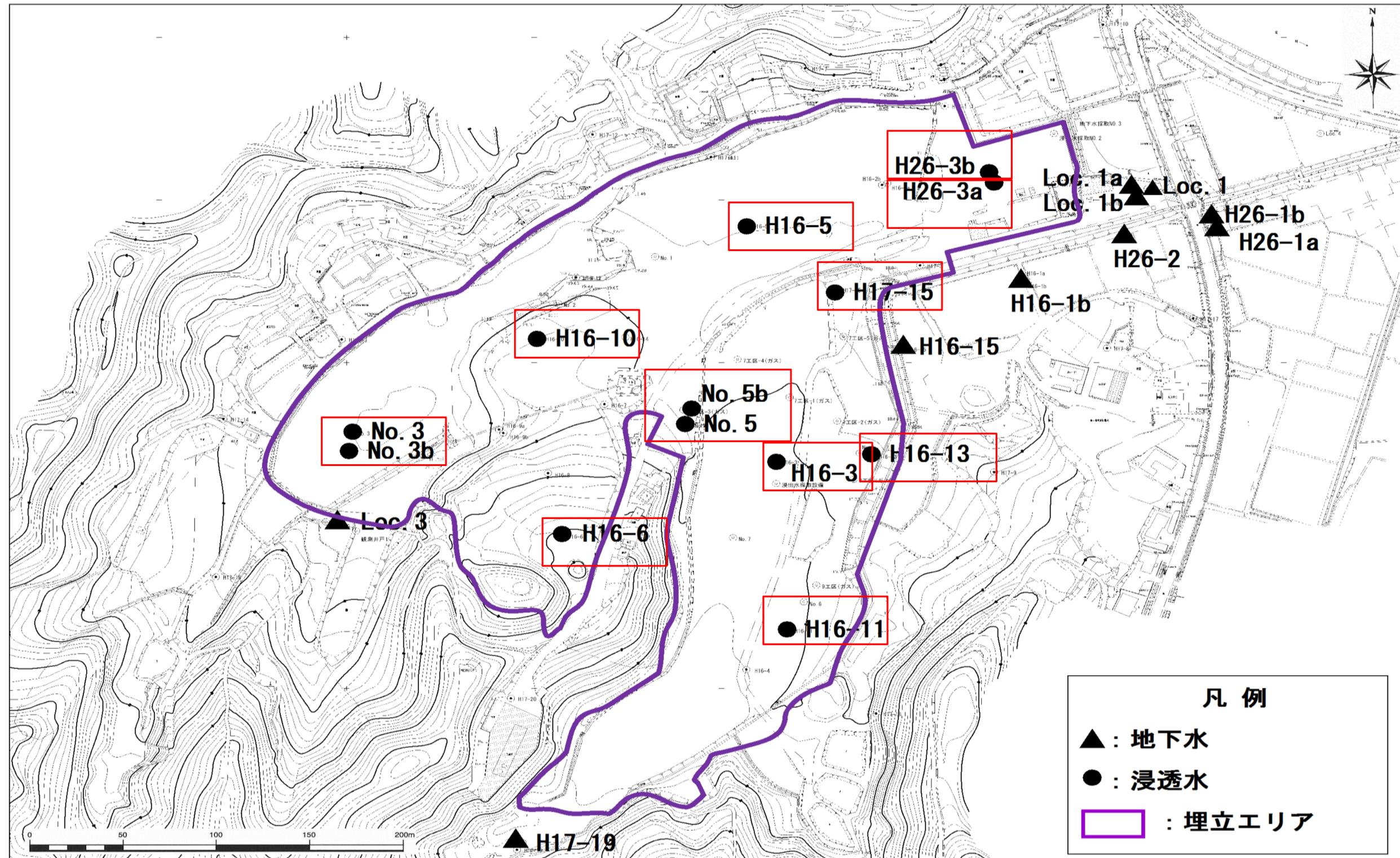
2-4 硫化水素連続調査(結果)



3 浸透水及び地下水水質調査(概要)

- 廃棄物埋立区域内(浸透水)及び処分場周辺(地下水)において、平成14年度から年4回の水質調査を実施。
- 調査地点：
浸透水11地点、地下水10地点(H26年度以降)
- 調査項目：
浸透水 36項目(H22年度以降)
地下水 19項目(H22年度以降)

浸透水 調査地点の位置 (11地点)



浸透水調査結果(H27.4～H28.9) ①

項目	基準超過地点数 /測定地点数	基準値(mg/L)	濃度範囲(mg/L)
総水銀	0/11	0.0005	0.0005未満
鉛	0/11	0.01	0.002未満～0.005
六価クロム	0/11	0.05	0.02未満
砒素	2/11	0.01	0.001未満～0.054
1,2-ジクロロエタン	0/11	0.004	0.0004未満
ベンゼン	0/11	0.01	0.001未満
BOD	9/11	20	2.8～87
ほう素	8/11	1	0.03～12
ふっ素	8/11	0.8	0.08未満～2.5
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	0/11	10	0.2未満～5.4

浸透水調査結果(H27.4～H28.9) ②

項目	基準超過地点数 /測定地点数	基準値(mg/L)	濃度範囲(mg/L)
1,4-ジオキサン	2/11	0.05	0.005未満～0.23
塩化ビニルモノマー	0/11	0.002	0.0002未満～0.0004
アルキル水銀	0/11	検出されないこと	0.0005未満
カドミウム	0/11	0.01	0.001未満
全シアン	0/11	検出されないこと	0.1未満
ポリ塩化ビフェニル	0/11	検出されないこと	0.0005未満
トリクロロエチレン	0/11	0.03	0.002未満
テトラクロロエチレン	0/11	0.01	0.0005未満
ジクロロメタン	0/11	0.02	0.002未満
四塩化炭素	0/11	0.002	0.0002未満

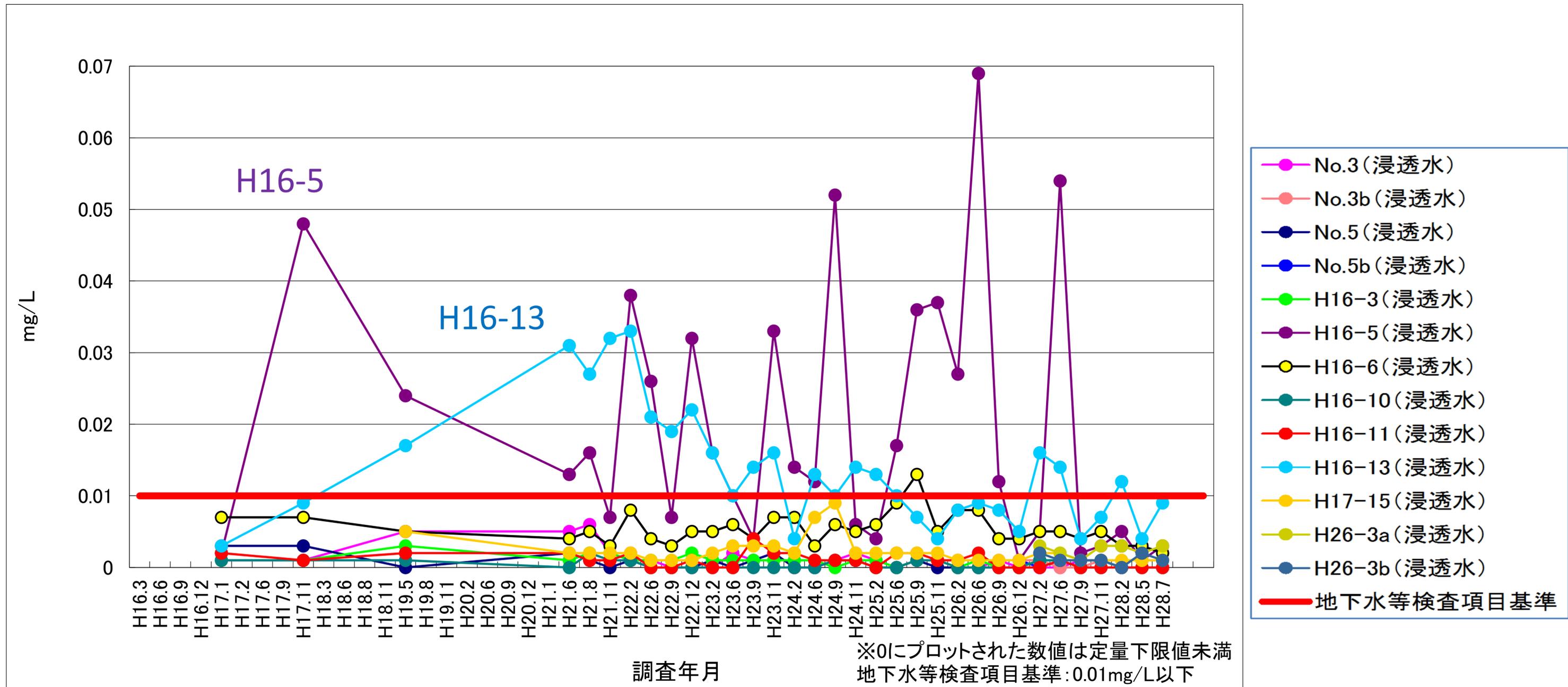
浸透水調査結果(H27.4～H28.9) ③

項目	基準超過地点数 /測定地点数	基準値(mg/L)	濃度範囲(mg/L)
1,1-ジクロロエチレン	0/11	0.1	0.002未満
1,2-ジクロロエチレン	0/11	0.04	0.004未満
1,1,1-トリクロロエタン	0/11	1	0.0005未満
1,1,2-トリクロロエタン	0/11	0.006	0.0006未満
1,3-ジクロロプロペン	0/11	0.002	0.0002未満
チウラム	0/11	0.006	0.0006未満
シマジン	0/11	0.003	0.0003未満
チオベンカルブ	0/11	0.02	0.002未満
セレン及びその化合物	0/11	0.01	0.002未満
ダイオキシン類 (pg-TEQ/l)	2/11	1	0.046～2.7

基準を超過している項目の状況【浸透水】

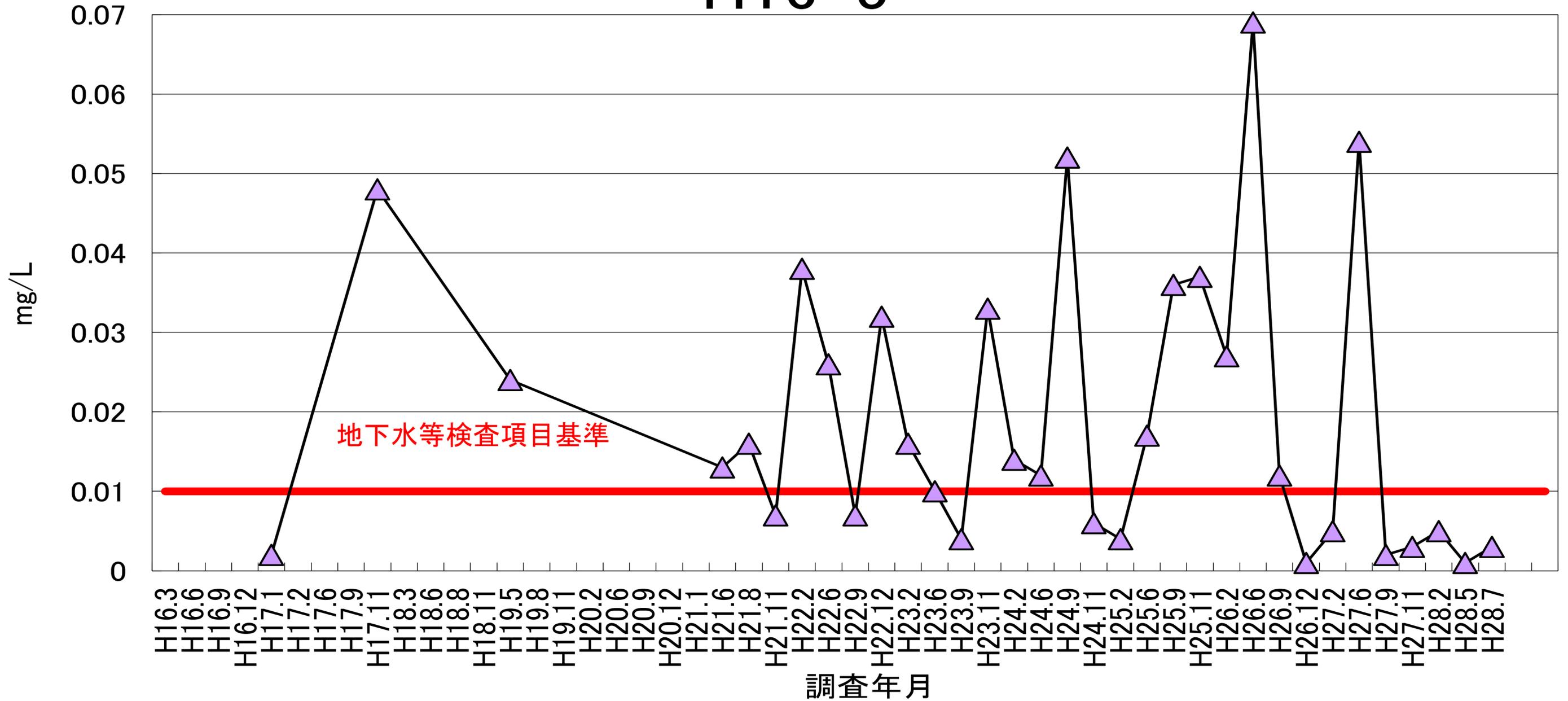
項目	状況
砒素	2地点で基準値を超過する状況が継続。他の9地点は基準値を満たす状況が継続。全体として横ばい傾向。
BOD	4地点で基準値を超過する状況が継続。他の7地点では基準値を満たす状況に低下又は概ね基準値を満たす状況が継続。全体としてやや低下か横ばい傾向。
ほう素	6地点で基準値を超過する状況が継続。他の5地点では基準値を満たす状況に低下又は概ね基準値を満たす状況が継続。全体としてやや低下か横ばい傾向。
ふっ素	6地点で基準値を超過する状況が継続。他の5地点では基準値を満たす状況に低下又は概ね基準値を満たす状況が継続。全体としてやや低下か横ばい傾向。
1,4-ジオキサン	3地点で基準値を超過する状況が継続。他の8地点は概ね基準値を満たす状況が継続。
ダイオキシン類	1地点(H16-5)で基準値を超過する状況が継続。他の10地点は概ね基準値を満たす状況が継続。

砒素(浸透水:11地点)測定結果の推移



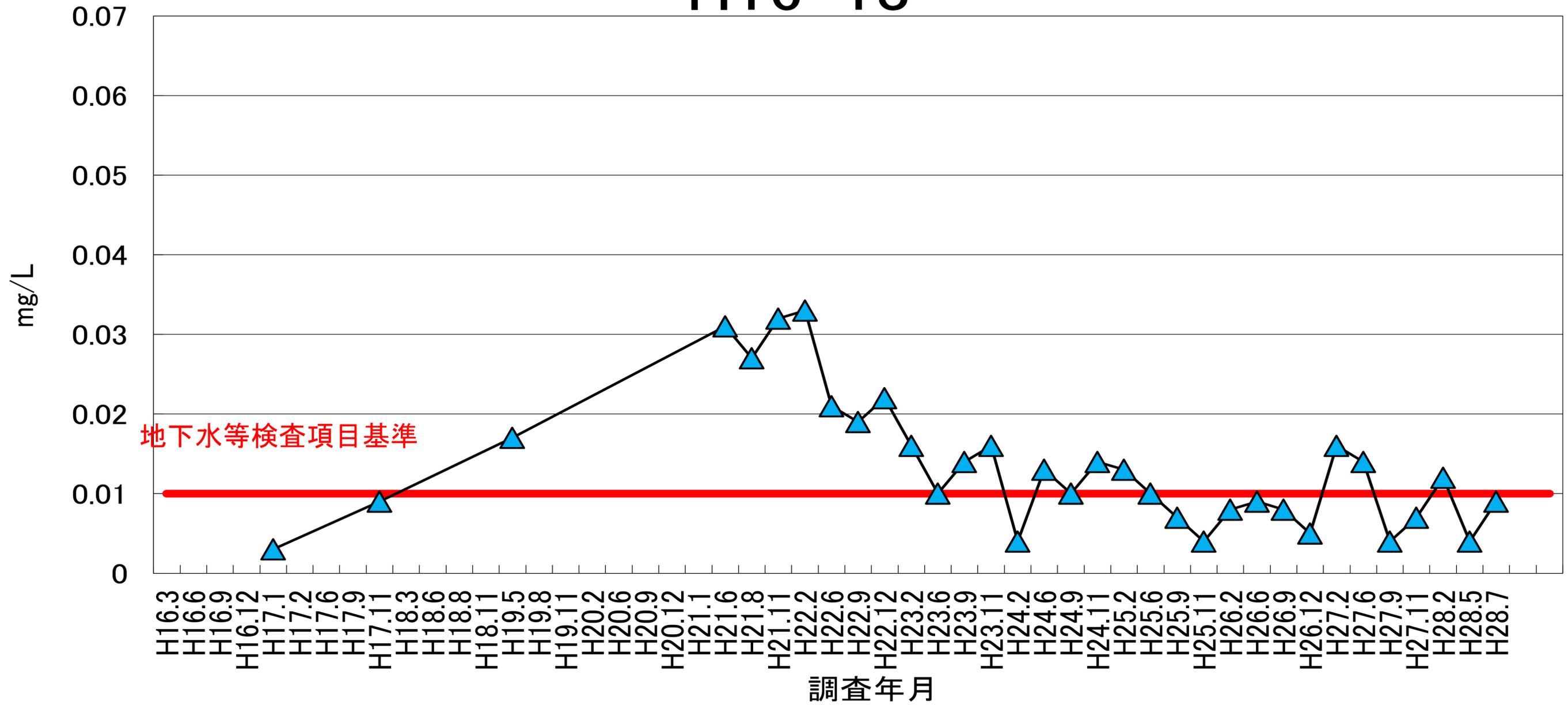
砒素（浸透水で濃度が高い地点①）

H16-5

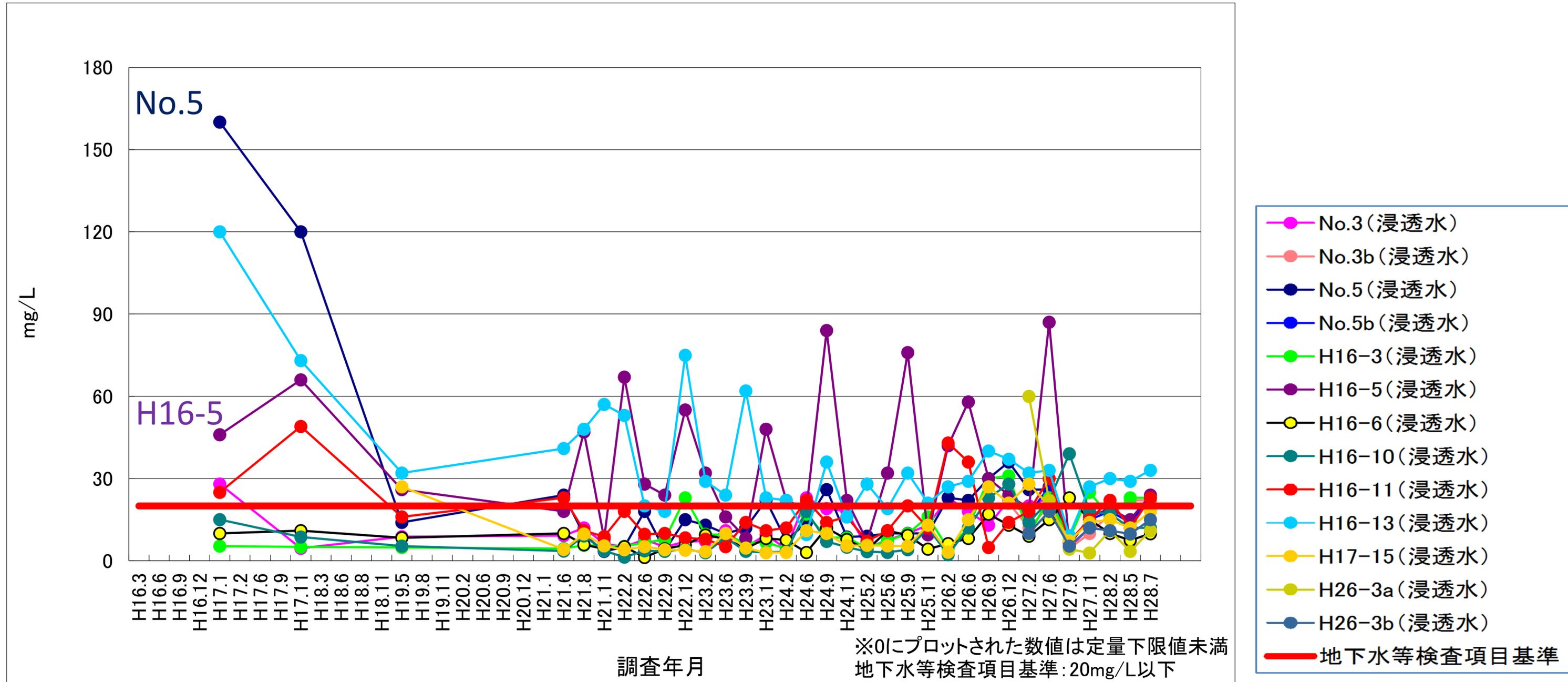


砒素（浸透水で濃度が高い地点②）

H16-13

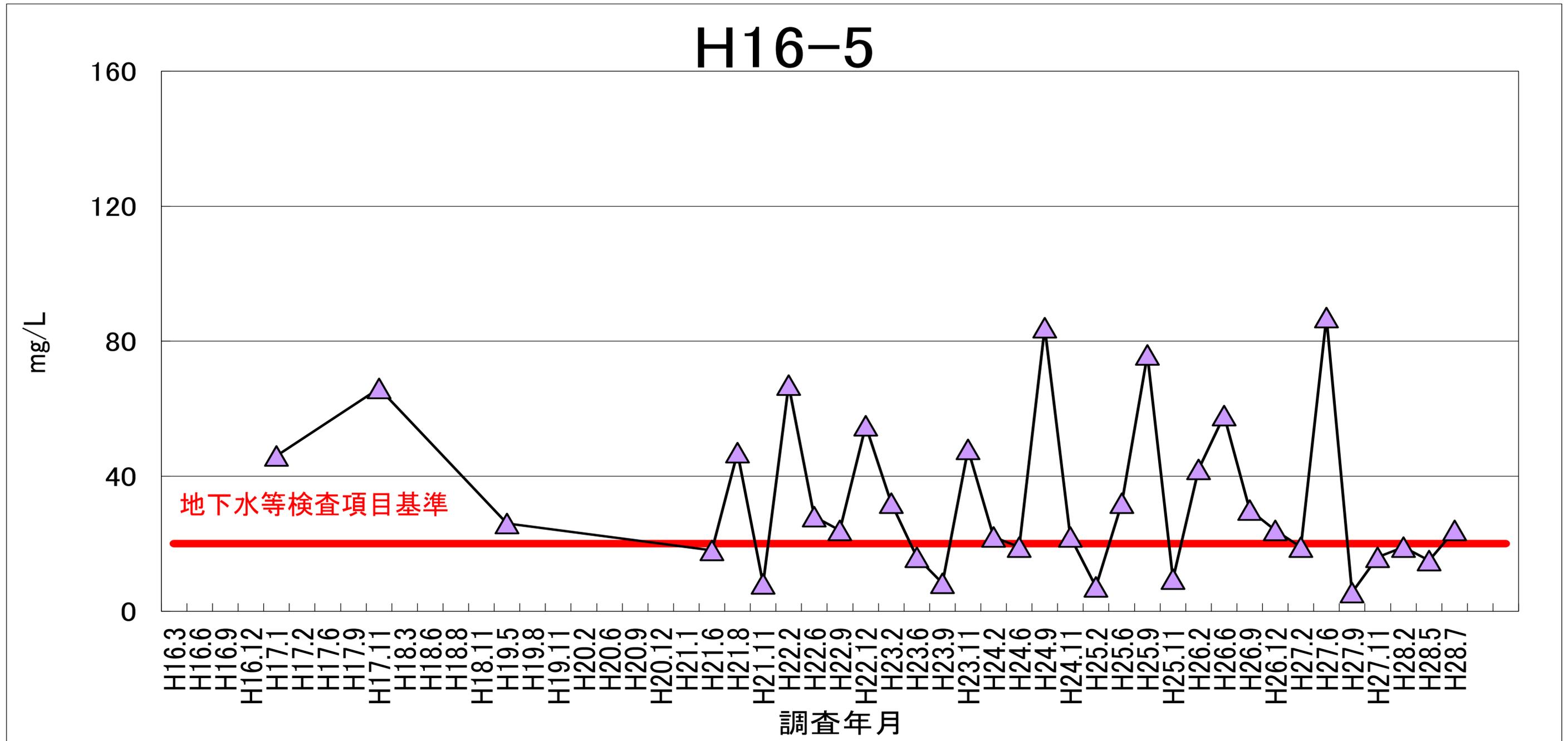


BOD(浸透水:11地点)測定結果の推移

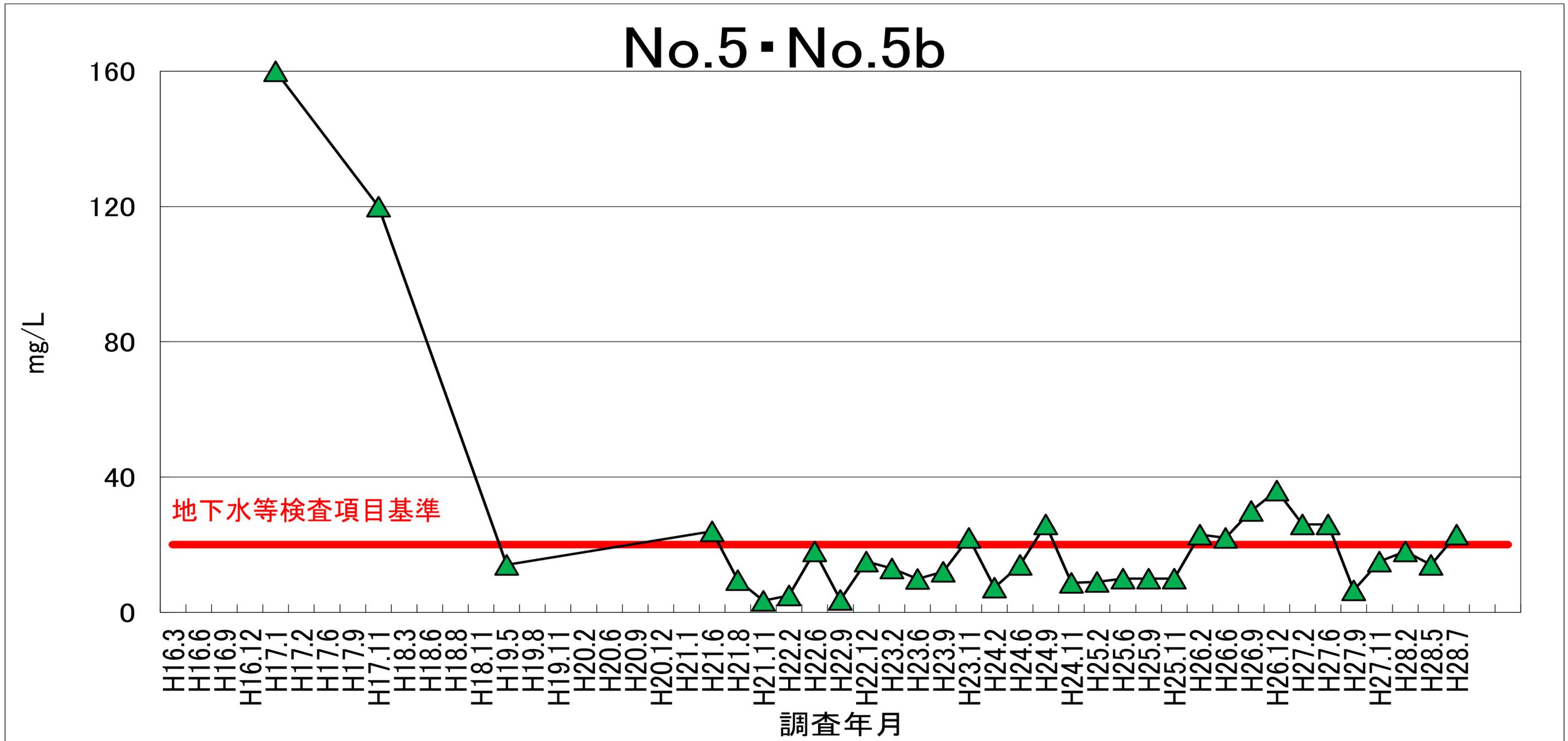


BOD(浸透水で濃度が高い地点①)

H16-5

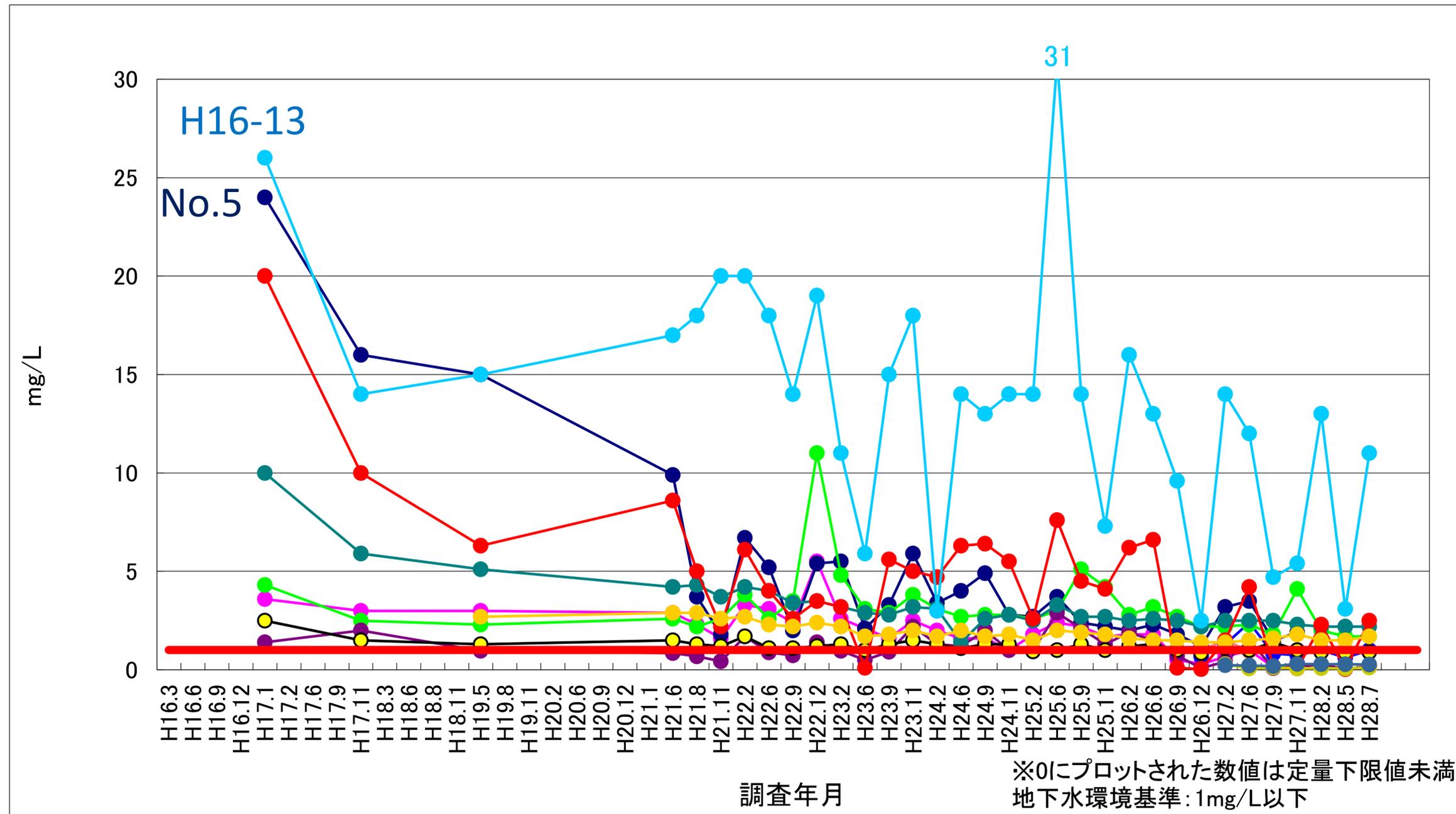


BOD（浸透水で濃度が高い地点②）



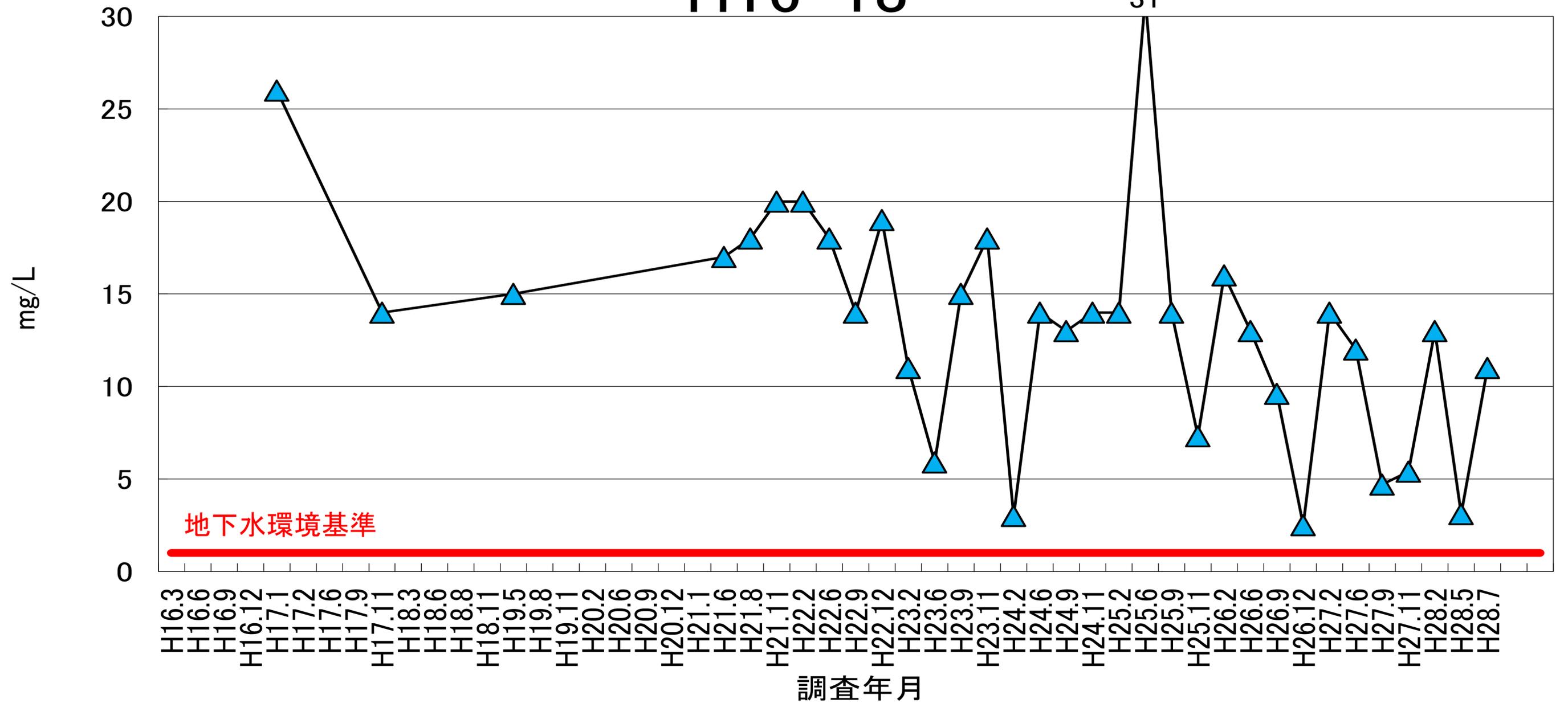
平成28年2月以降は、No.5bデータを用いている。
評価委員会においてNo.5からNo.5bへの観測地点の変更は了承済である。

ほう素（浸透水：11地点）測定結果の推移

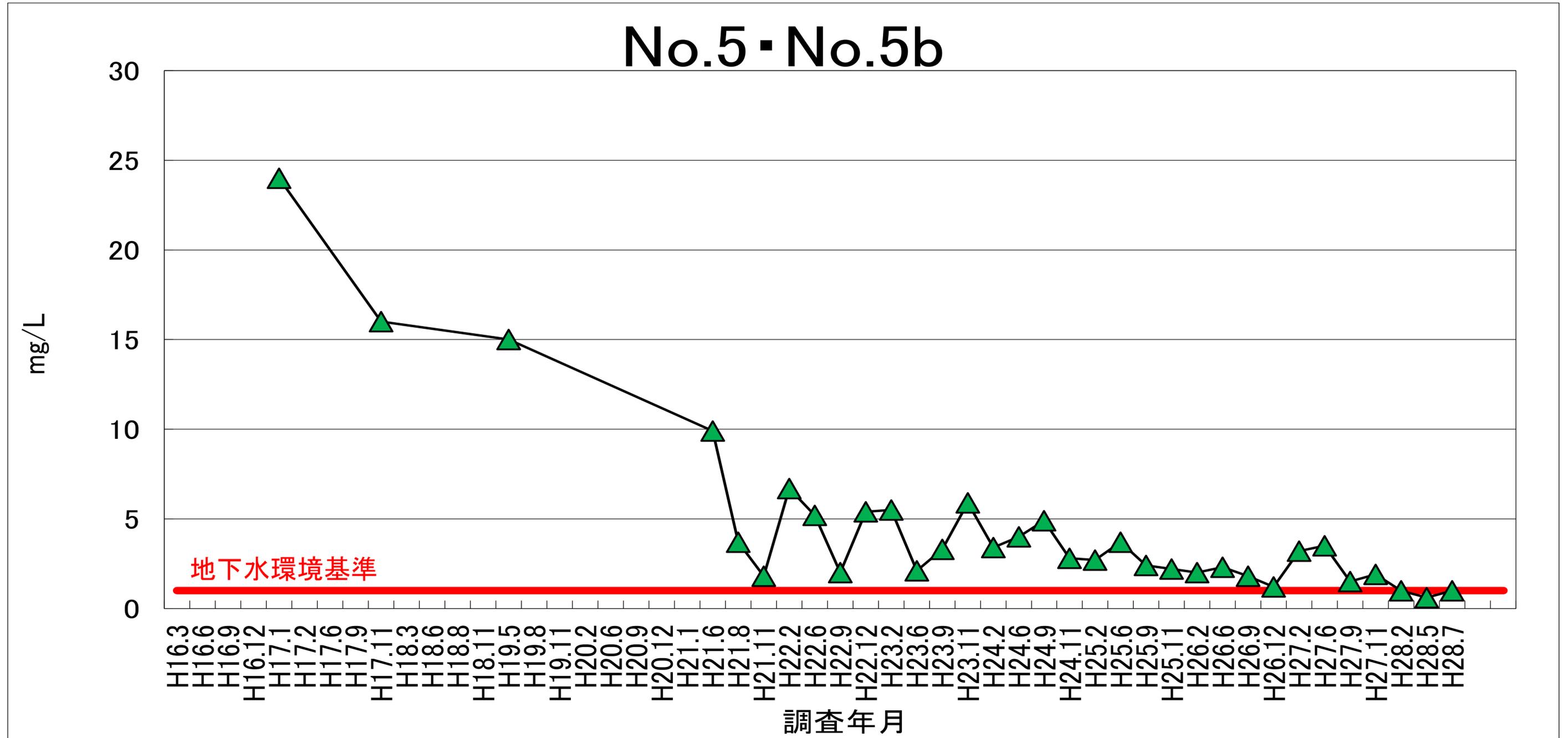


ほう素（浸透水で濃度が高い地点①）

H16-13

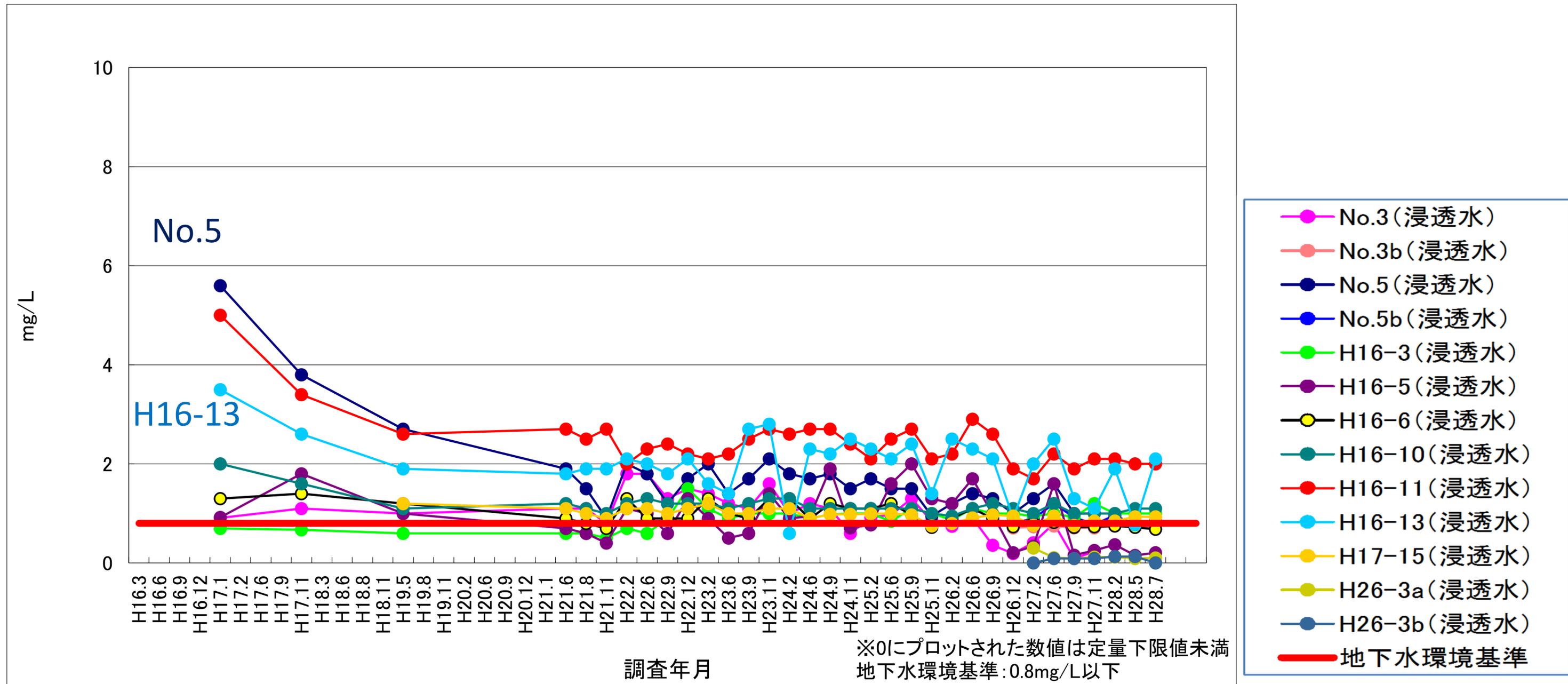


ほう素（浸透水で濃度が高い地点②）

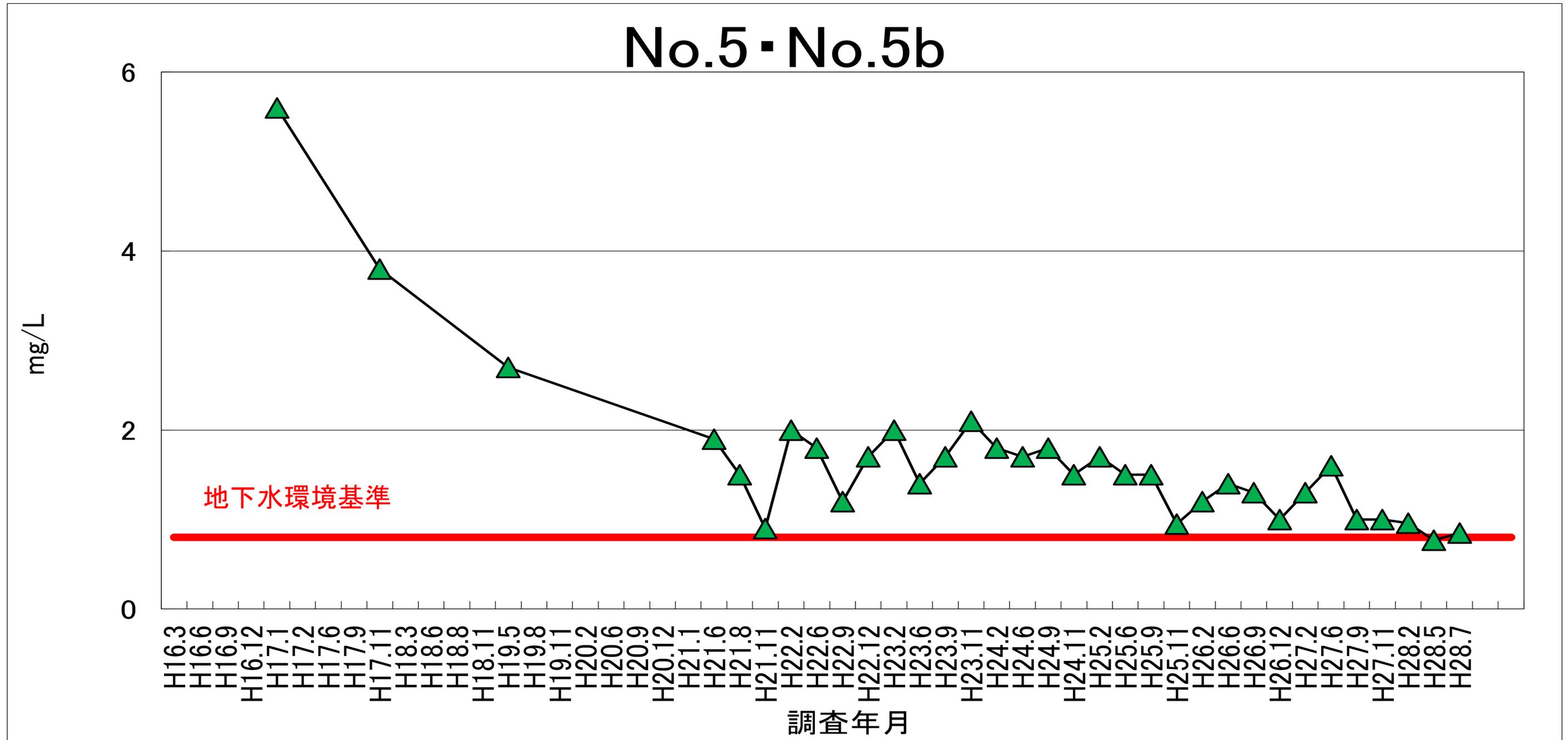


平成28年2月以降は、No.5bデータを用いている。
評価委員会においてNo.5からNo.5bへの観測地点の変更は了承済である。

ふっ素（浸透水：11地点）測定結果の推移



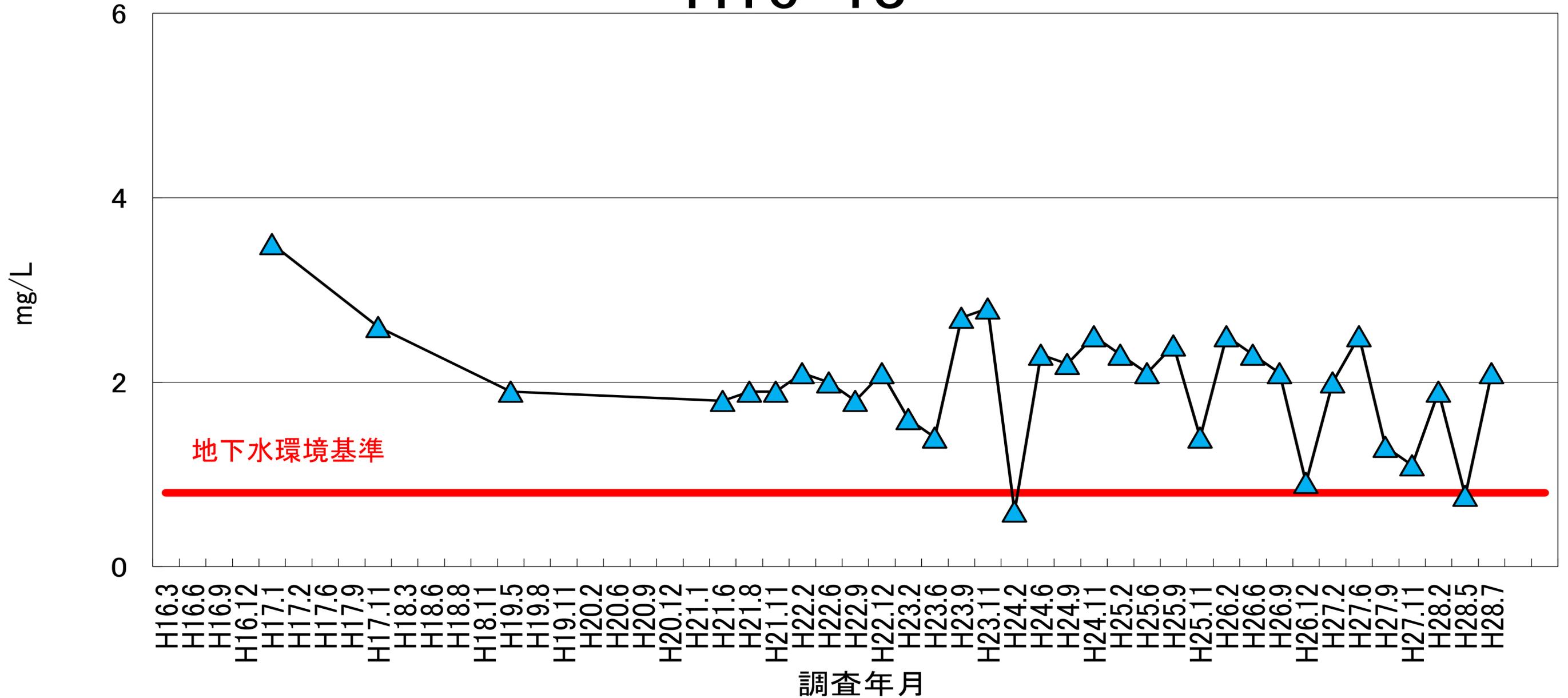
ふっ素（浸透水で濃度が高い地点①）



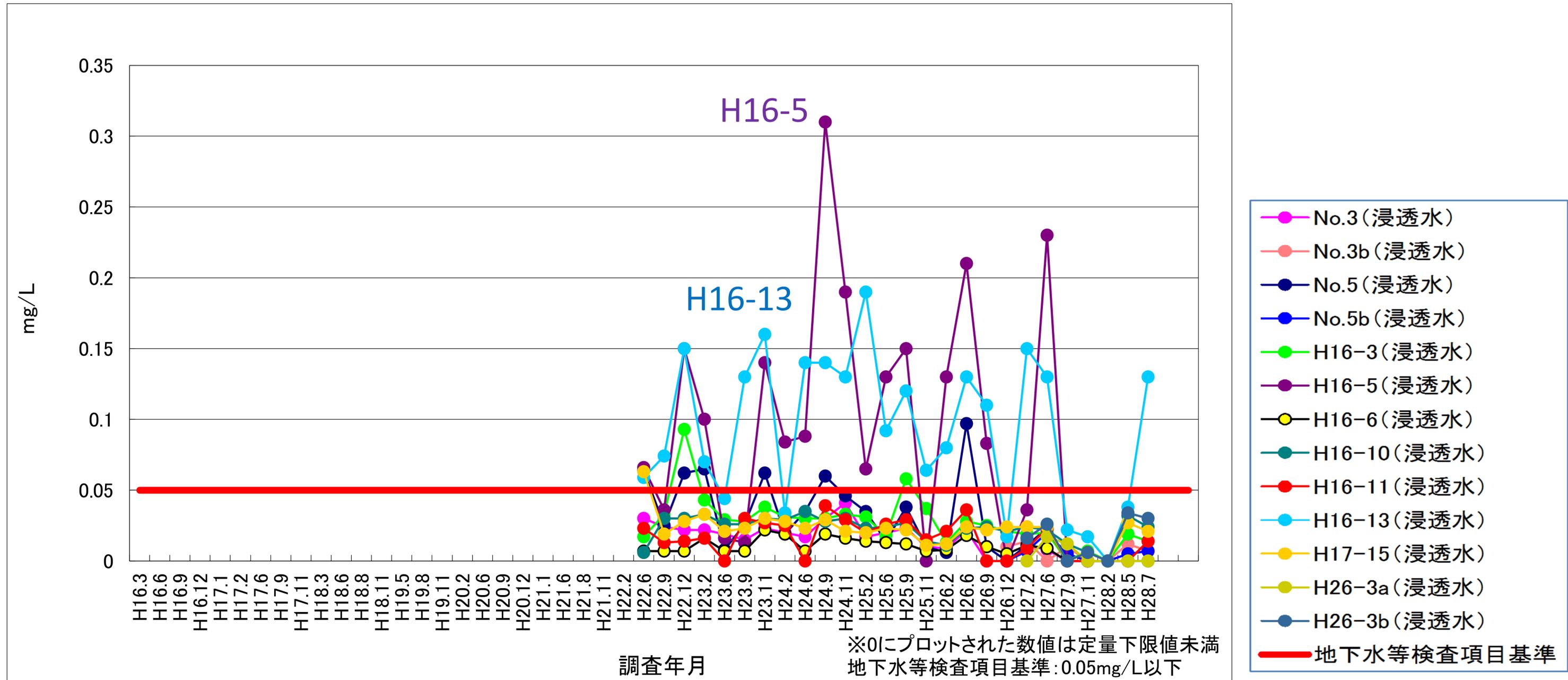
平成28年2月以降は、No.5bデータを用いている。
評価委員会においてNo.5からNo.5bへの観測地点の変更は了承済である。

ふっ素（浸透水で濃度が高い地点②）

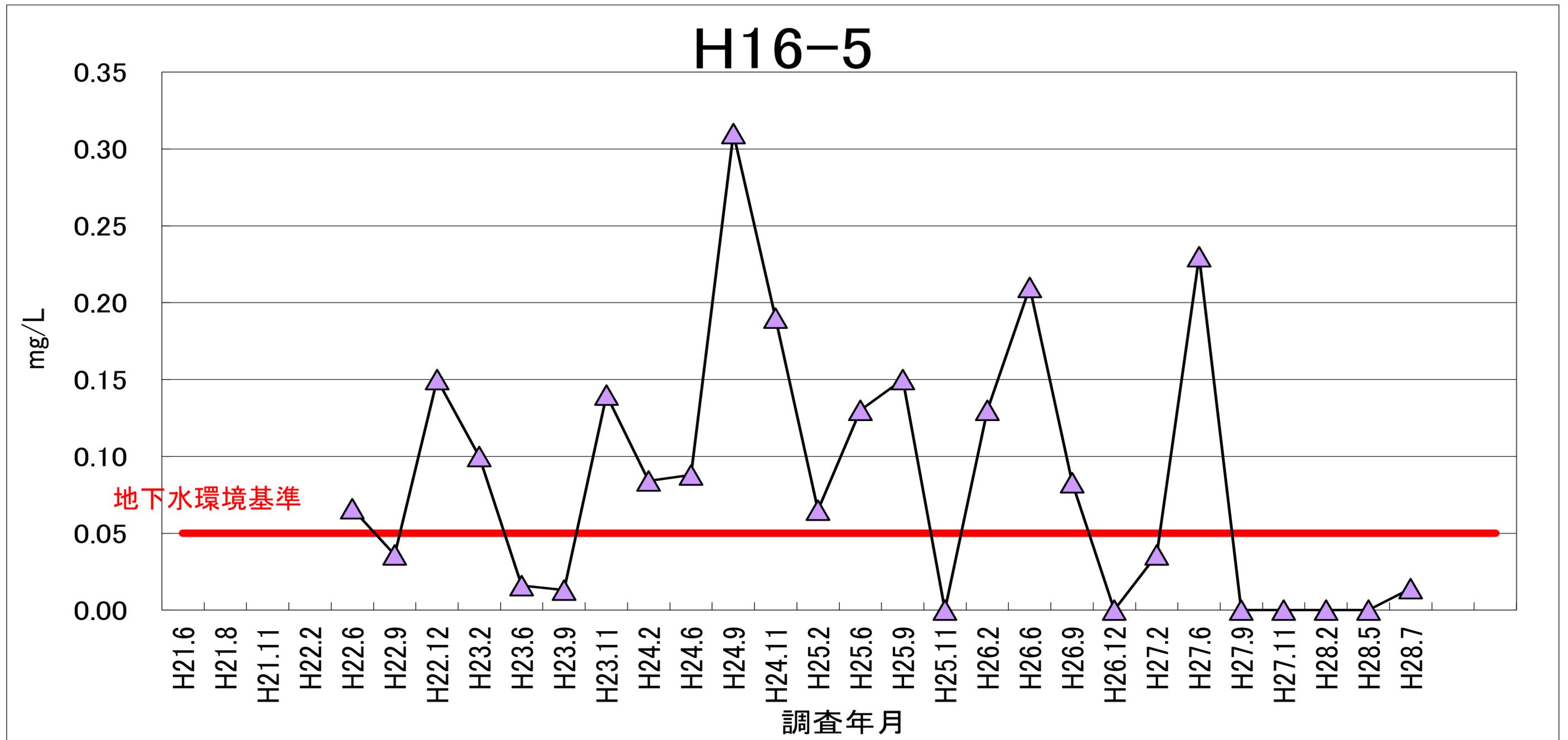
H16-13



1,4-ジオキサン(浸透水:11地点)測定結果の推移

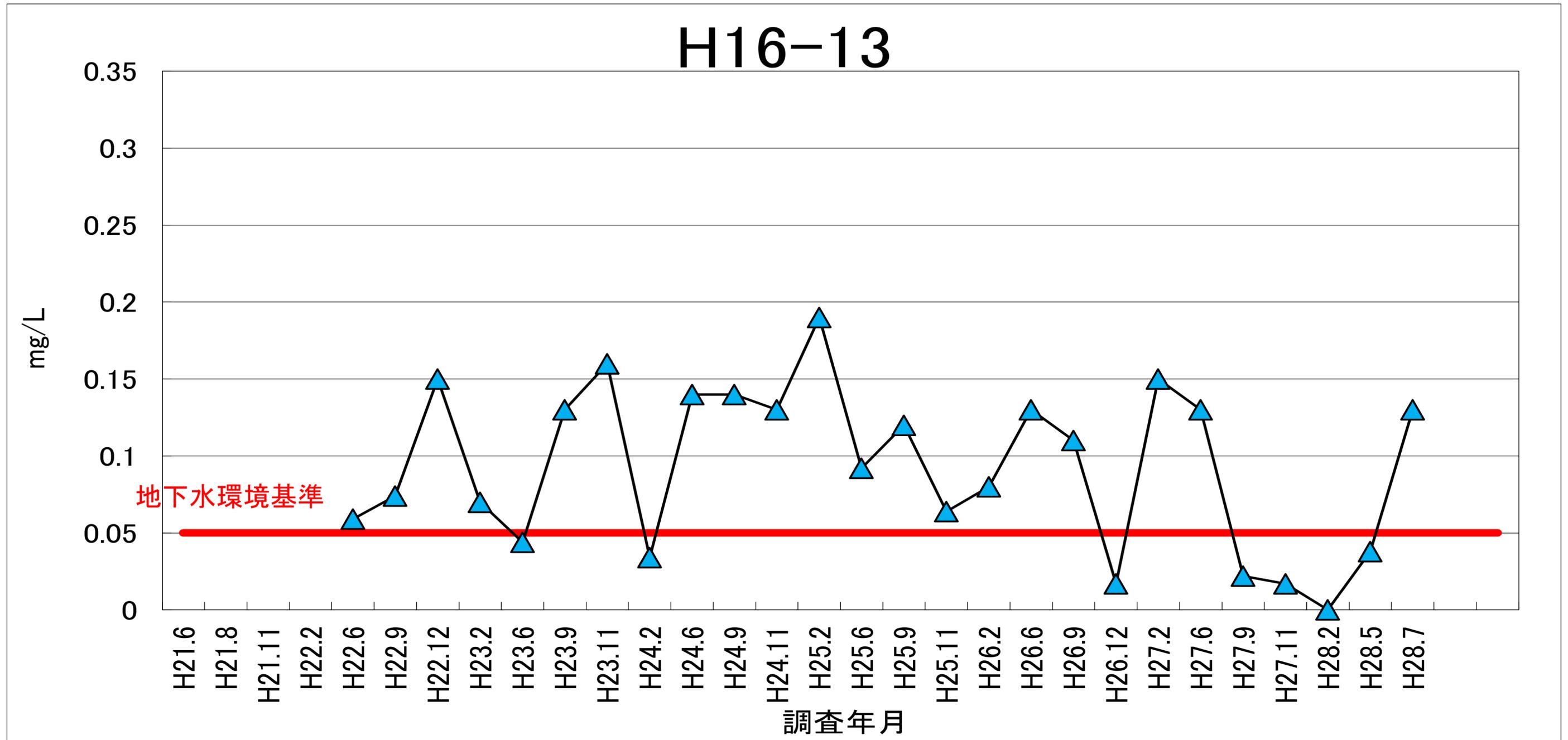


1,4-ジオキサン（浸透水で濃度が高い地点①）

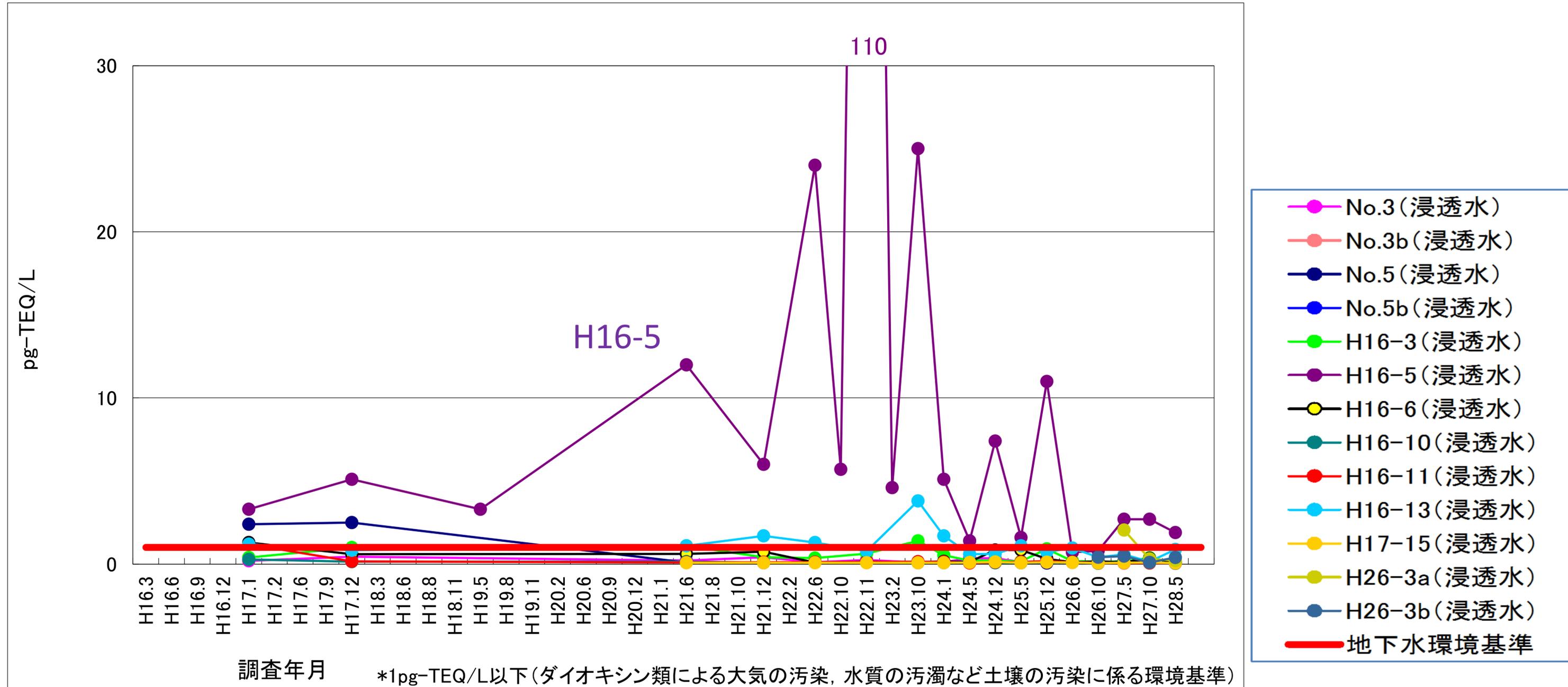


1,4-ジオキサン（浸透水で濃度が高い地点②）

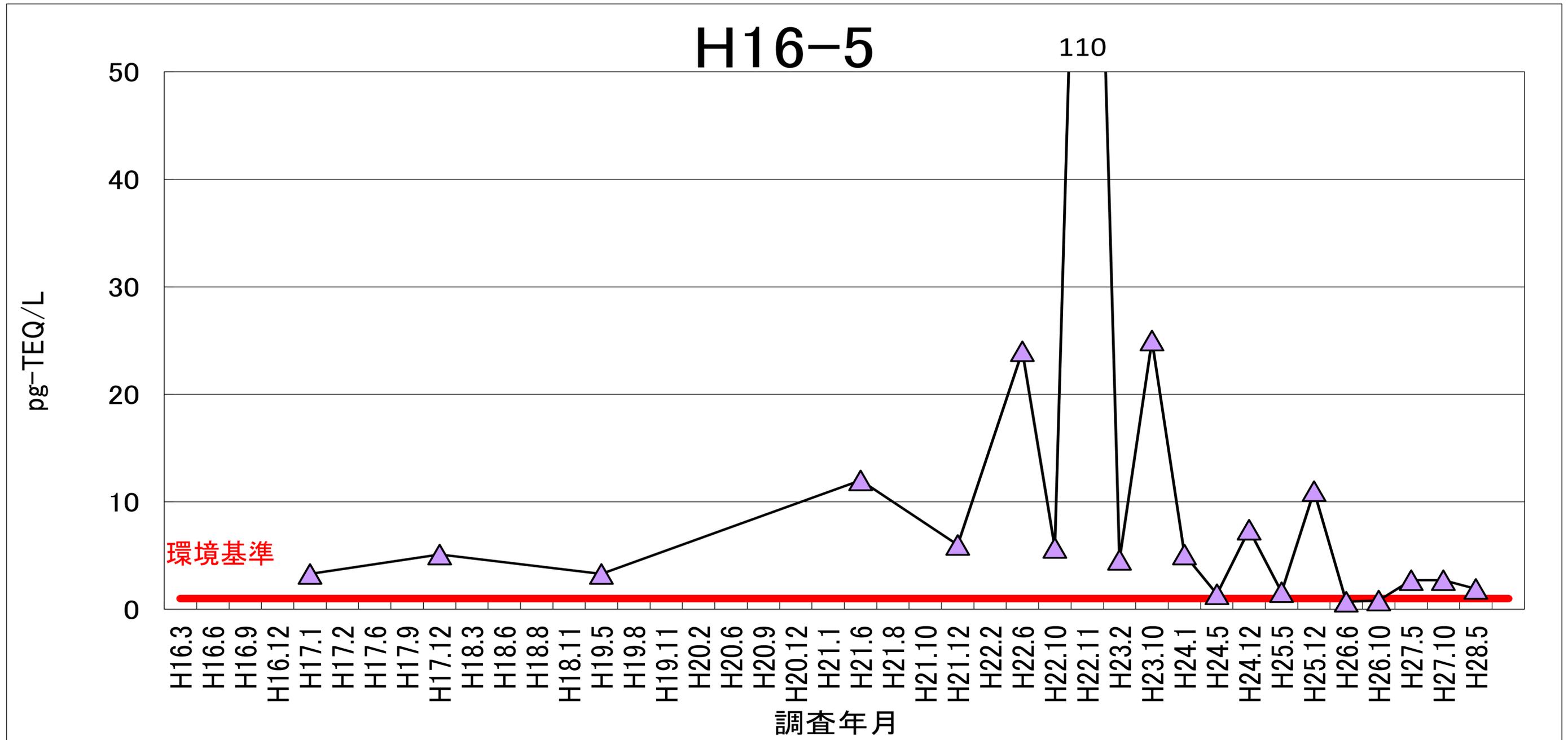
H16-13



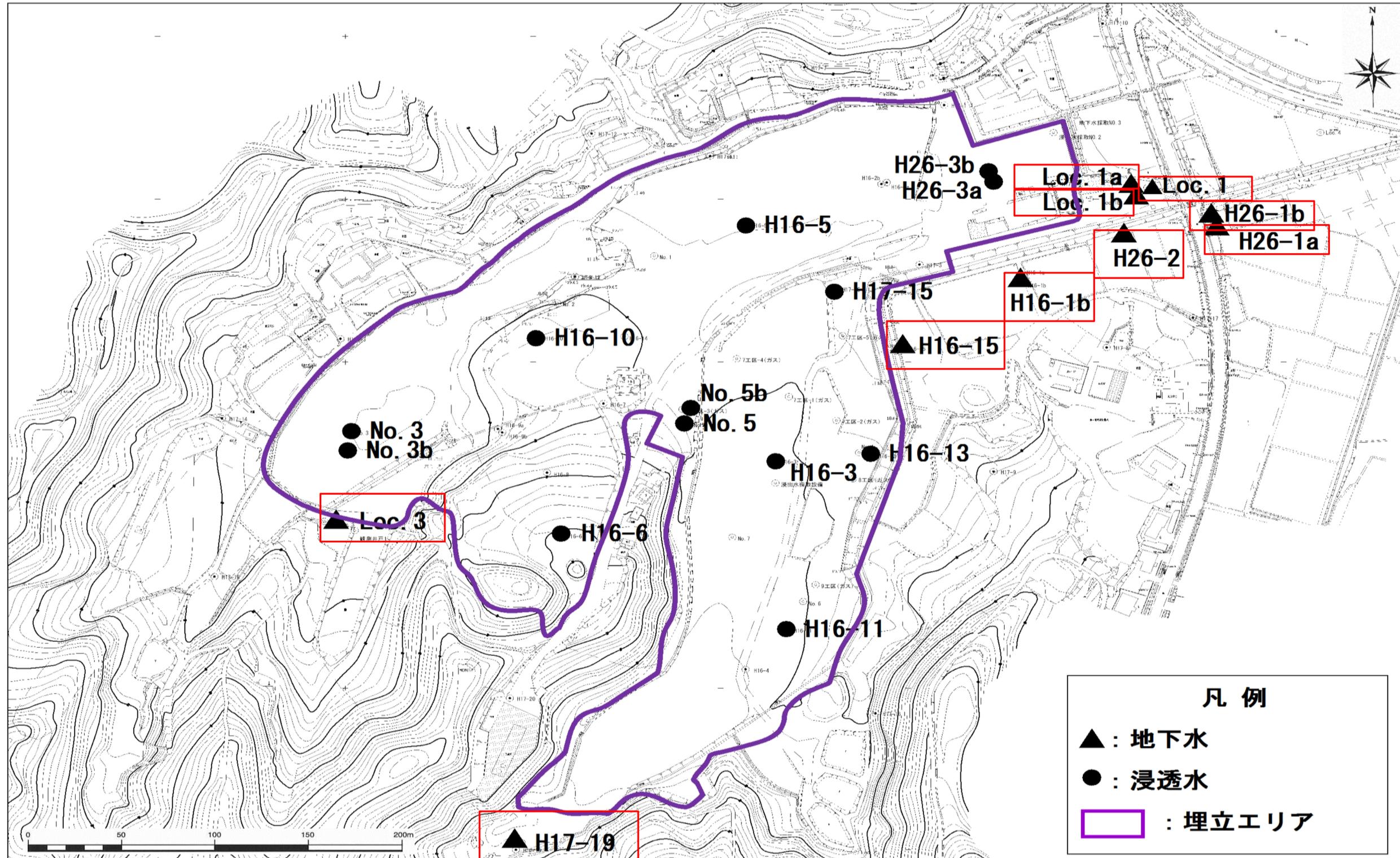
ダイオキシン類(浸透水:11地点)測定結果の推移



ダイオキシン類（浸透水で濃度が高い地点）



地下水調査地点の位置（10地点）



地下水調査結果(H27.4～H28.9) ①

項目	基準超過地点数 /測定地点数	基準値(mg/L)	濃度範囲(mg/L)
総水銀	0/10	0.0005	0.0005未満
鉛	1/10	0.01	0.002未満～0.015
六価クロム	0/10	0.05	0.02未満
砒素	1/10	0.01	0.001未満～0.068
1,2-ジクロロエタン	0/10	0.004	0.0004未満
ベンゼン	0/10	0.01	0.001未満
BOD	0/10	20	0.5未満～17
ほう素	0/10	1	0.02未満～0.20
ふっ素	0/10	0.8	0.08未満～0.20
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	0/10	10	0.2未満～1.1

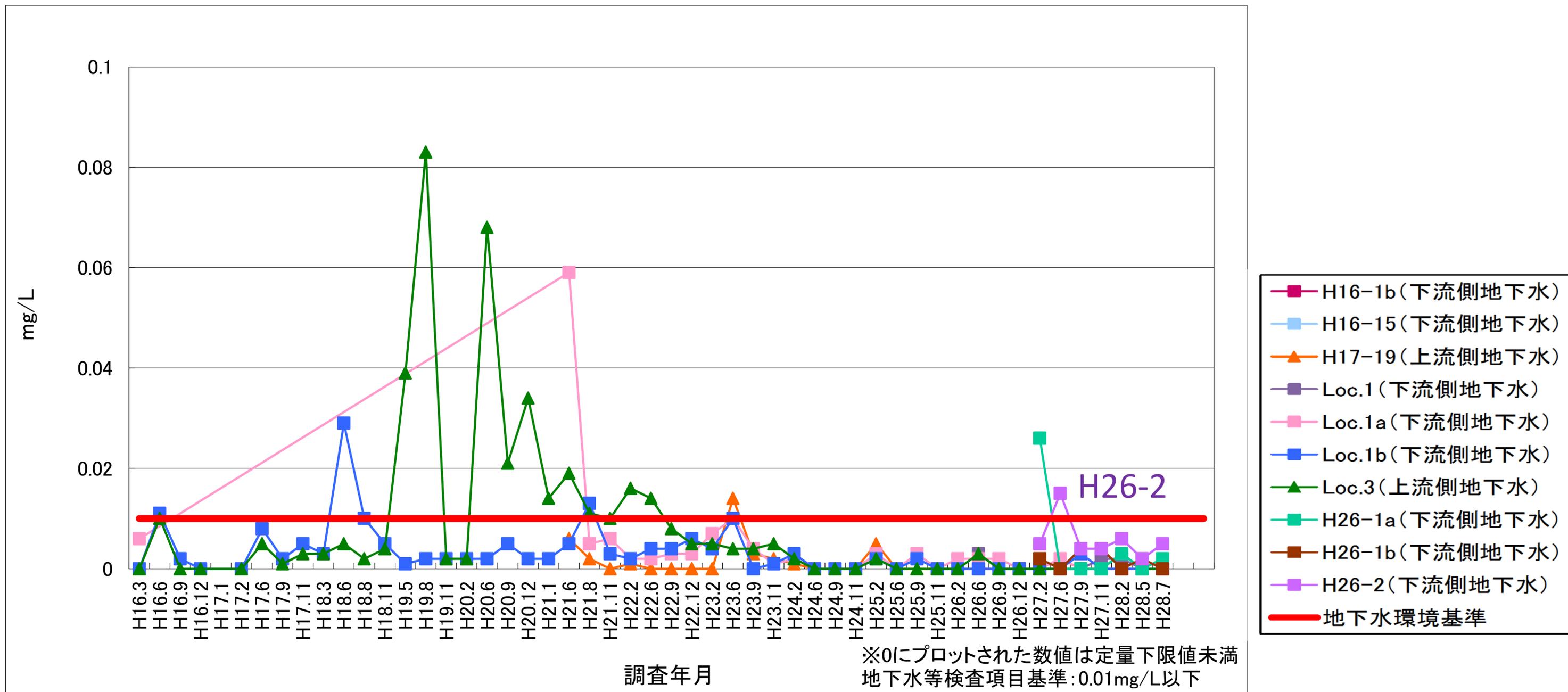
地下水調査結果(H27.4～H28.9) ②

項目	基準超過地点数 /測定地点数	基準値(mg/L)	濃度範囲(mg/L)
1,4-ジオキサン	0/10	0.05	0.005未満
塩化ビニルモノマー	0/10	0.002	0.0002未満
ダイオキシン類 (pg-TEQ/l)	2/10	1	0.062～2.9

基準を超過している項目の状況【地下水】

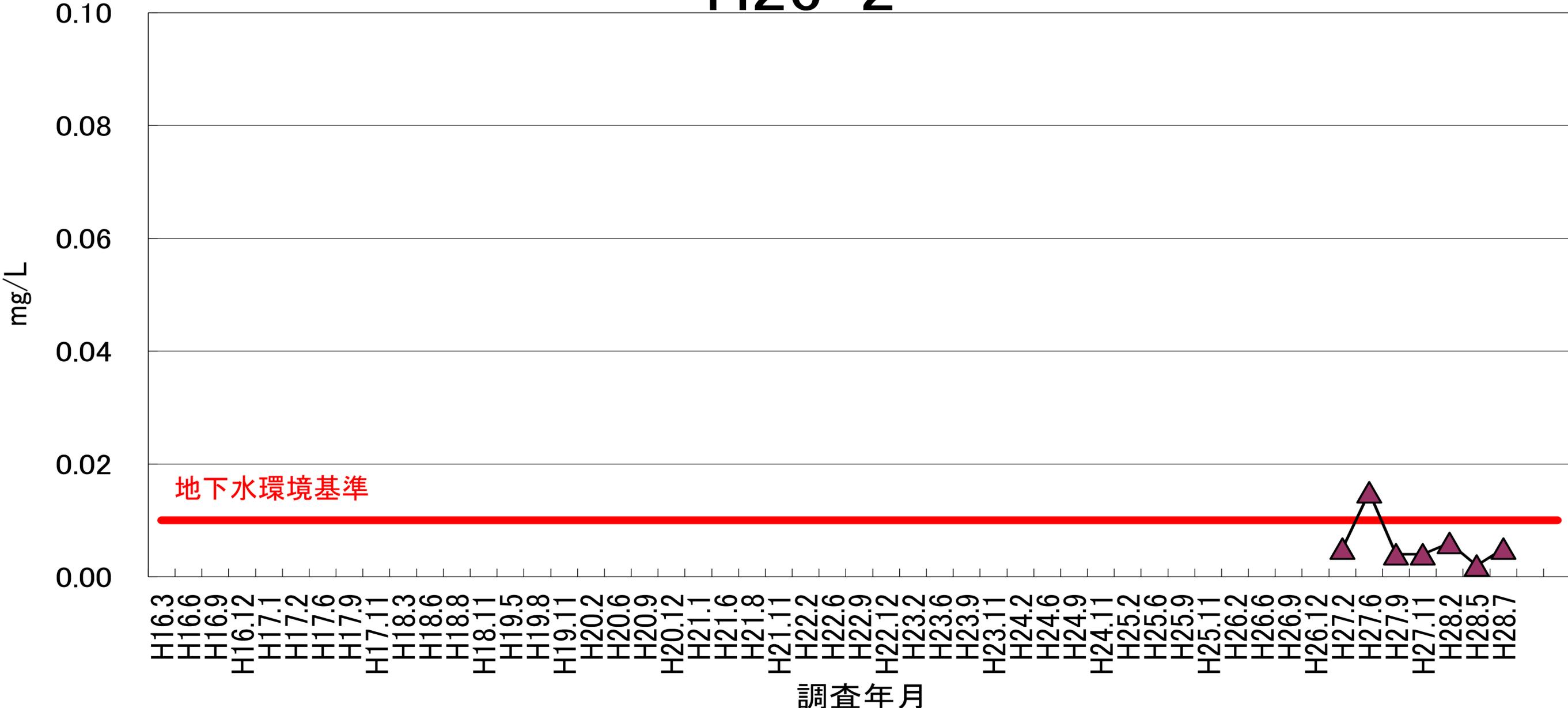
項目	状況
鉛	<p>全10地点で概ね基準値を満たす状況であるが、下流側の2地点(H26-1a, H26-2)で時々基準値を超過することがある。</p> <p>【原因】当該井戸周辺の土壌には自然由来の鉛が含有しており、鉛を含む土粒子が混入した状態で水を採取したことによるものと考えられる。</p>
砒素	<p>上流側の1地点(H17-19)で基準値を超過することがあるが、他の9地点は基準値を満たす状況が継続している。</p> <p>【原因】当該井戸は地下水流向の上流側に位置するため、検出される砒素は処分場の影響によるものではないと考えられる。</p>
ダイオキシン類	<p>下流側の2地点(H26-1a, H26-2)で時々基準値を超過することがあるが、他の8地点は基準値を満たす状況である。</p> <p>【原因】処分場の内と外ではダイオキシン類の由来が異なること、処分場周辺の土壌から過去に使用された農薬由来と考えられるダイオキシン類が検出されたことから、ダイオキシン類を含む土粒子が混入した状態で水を採取したことによるものであり、処分場の影響によるものではないことが考えられる。</p>

鉛(地下水:10地点)測定結果の推移



鉛（地下水で濃度が高い地点）

H26-2



地下水から検出された鉛の由来について

H26-1a,H26-2で基準を超過する鉛が検出



当該井戸周辺の**土壌**には
自然由来の**鉛**が含有

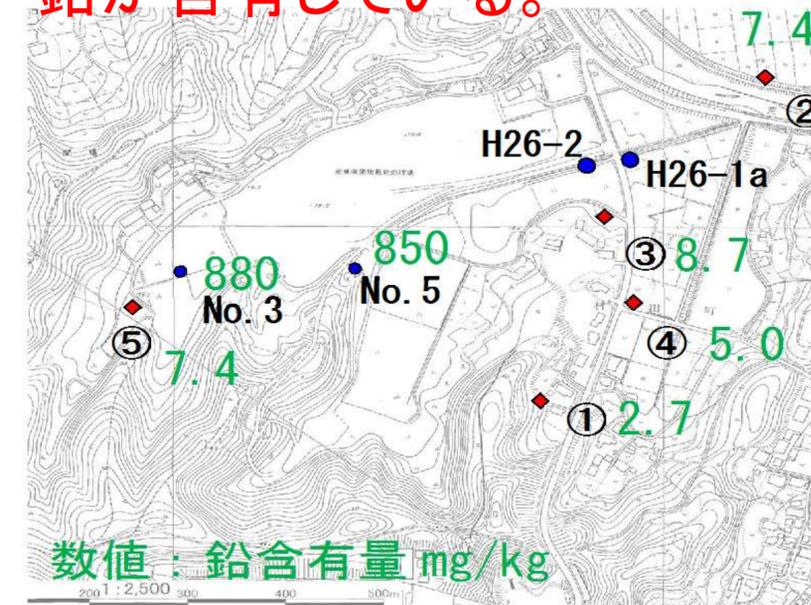


地下水採取時に、**鉛を含む土粒子**が
井戸内に流入



鉛を含む土粒子が混入した状態で
水を採取したことによるものと判断

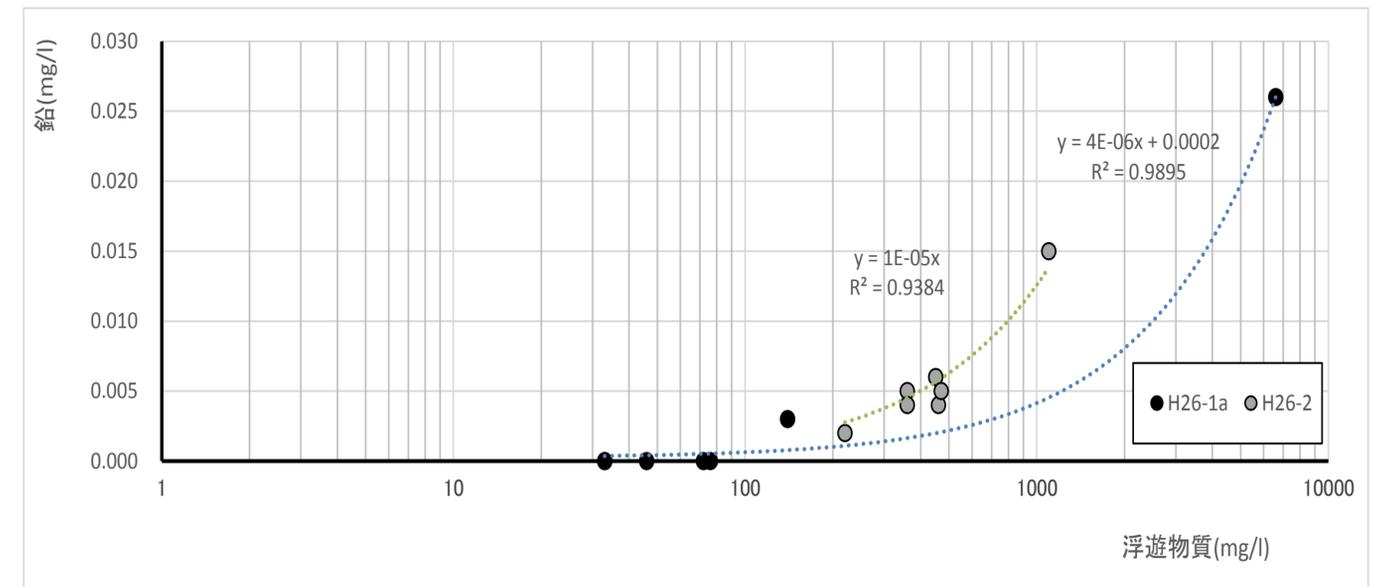
当該井戸及び周辺土壌は、
鉛が含有している。



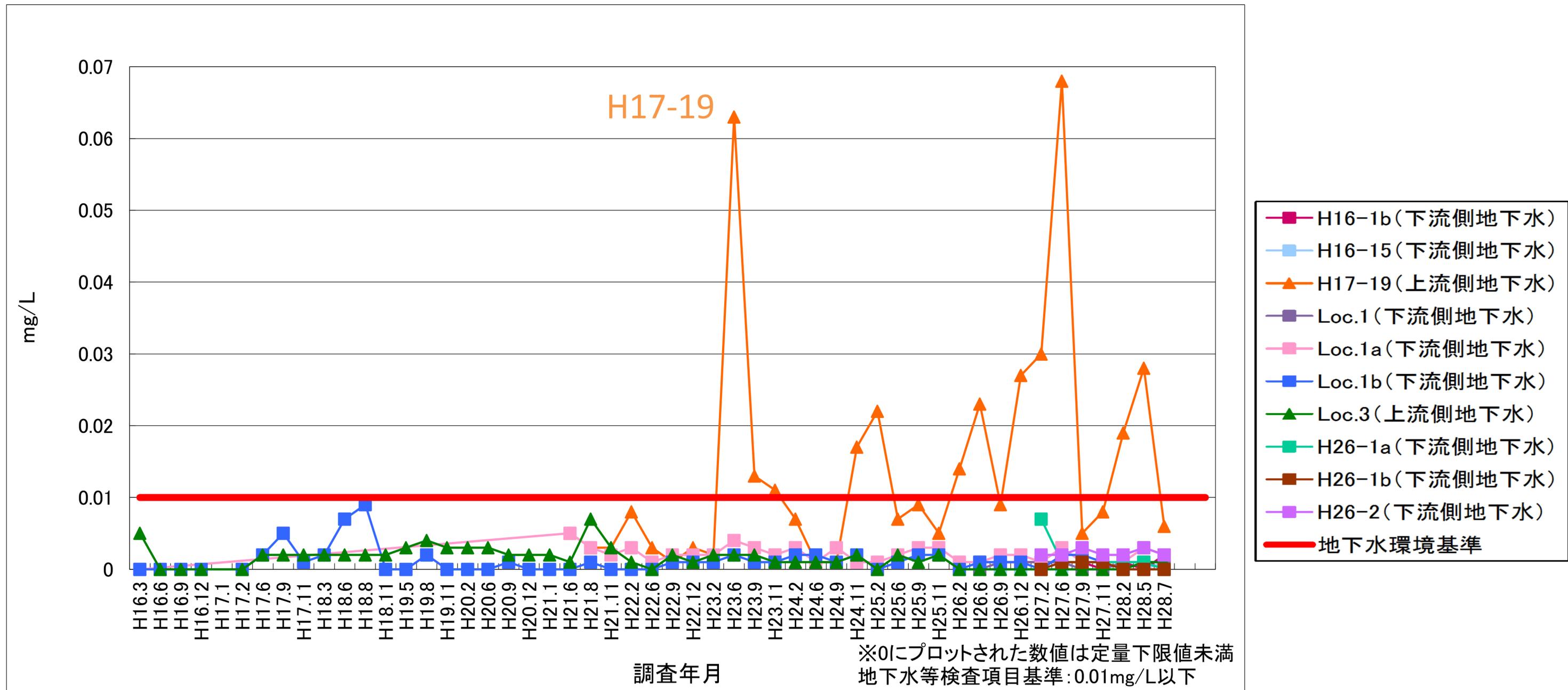
H26-1a	
盛土層 (B1)	5
ピート(Ap)	10
シルト層 (Ac2)	6
業界質砂岩 (HSs)	3

H26-2	
盛土層 (B1)	10
ピート(Ap)	12
シルト層 (Ac2)	11
業界質砂岩 (HSs)	8

土粒子が多くなると
鉛濃度は高くなる傾向にある。

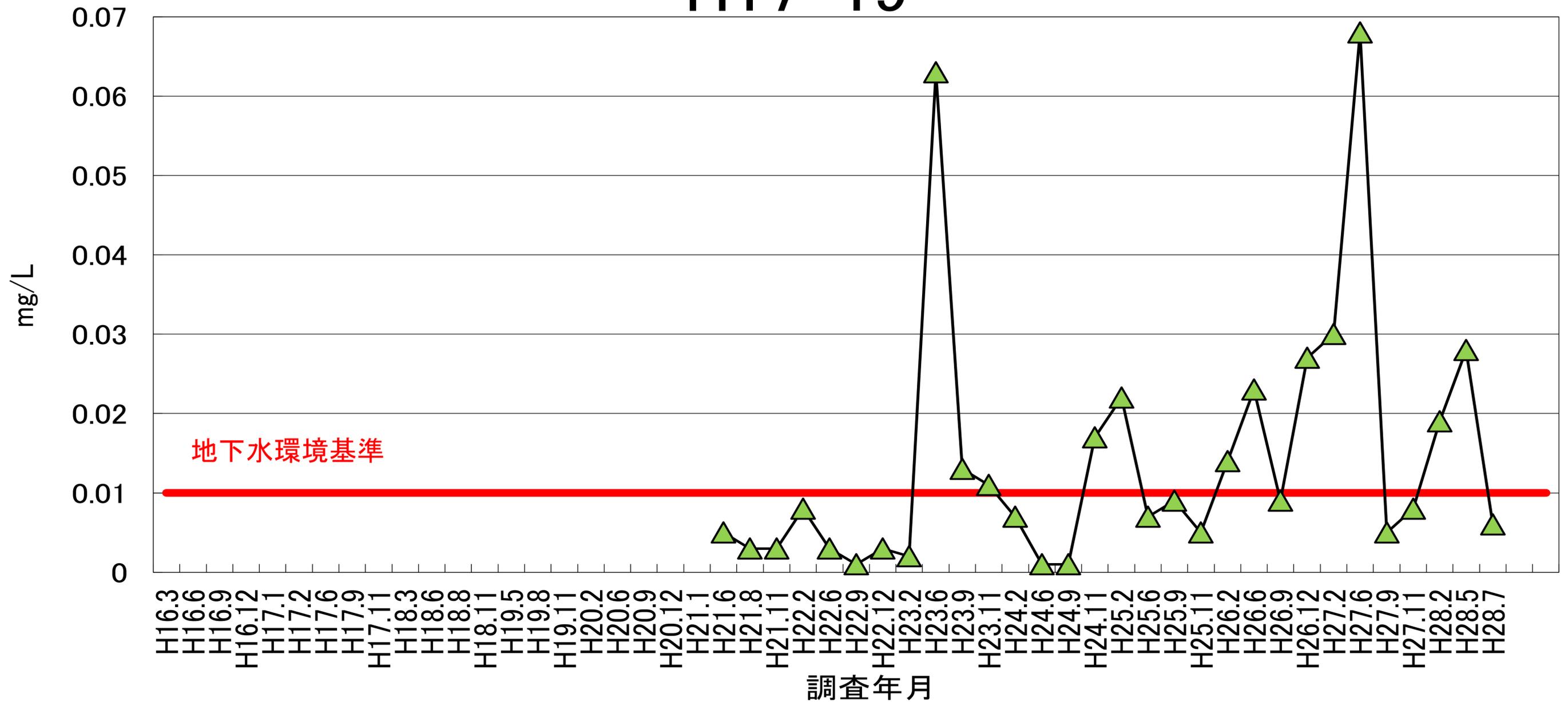


砒素(地下水:10地点)測定結果の推移



砒素（地下水で濃度が高い地点）

H17-19



地下水から検出された砒素の由来について

H17-19で

基準を超過する砒素が検出



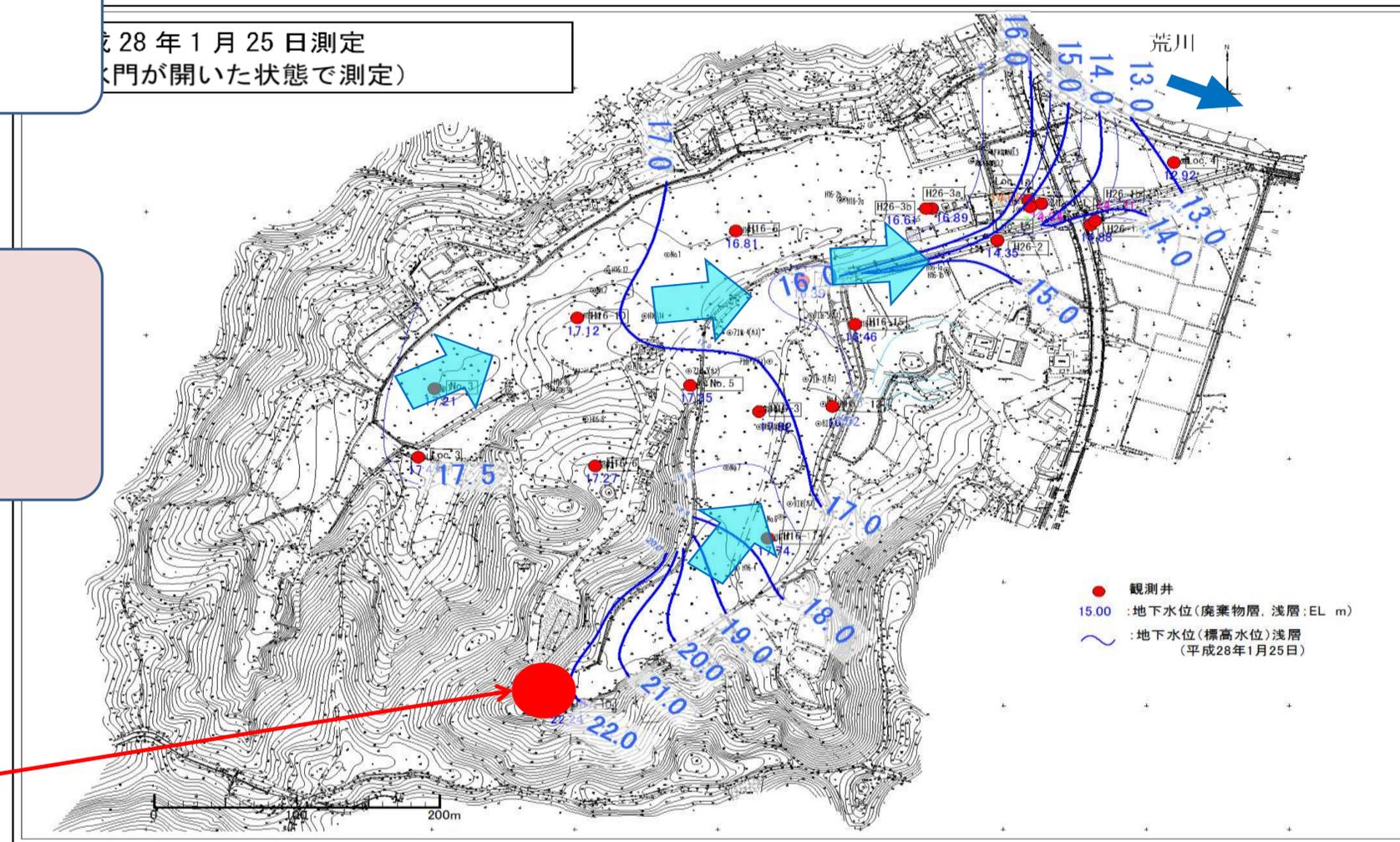
H17-19は地下水流向の**上流側**に位置する



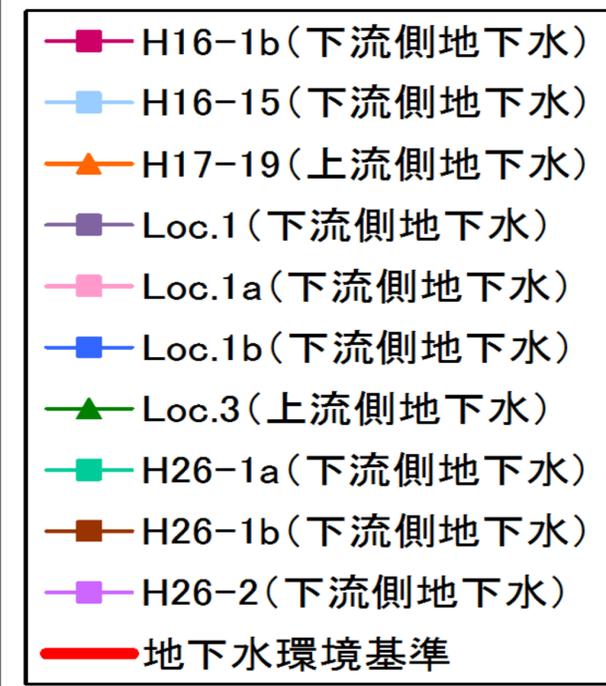
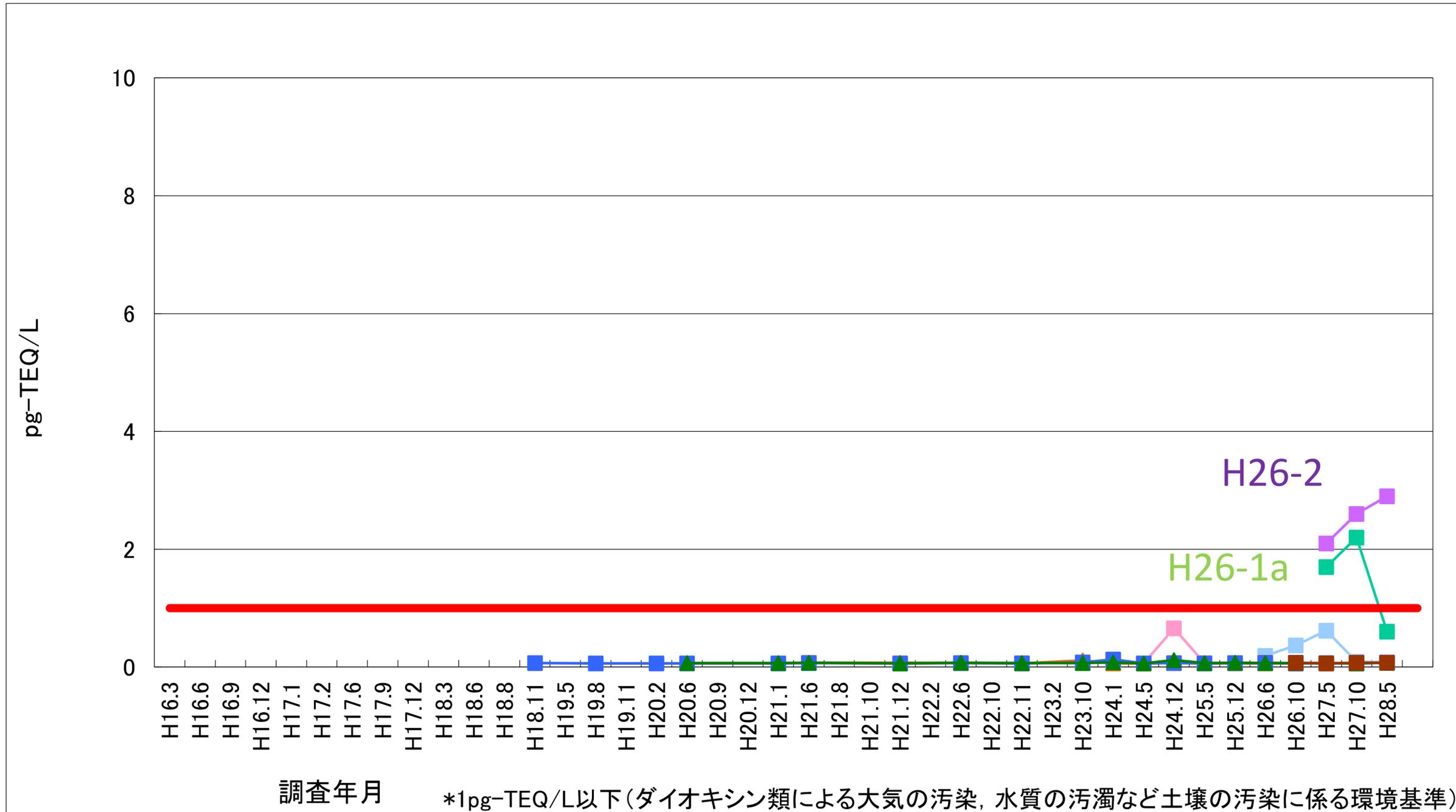
検出される砒素は
処分場の影響によるものではない

H17-19は、地下水**上流側**に位置する。

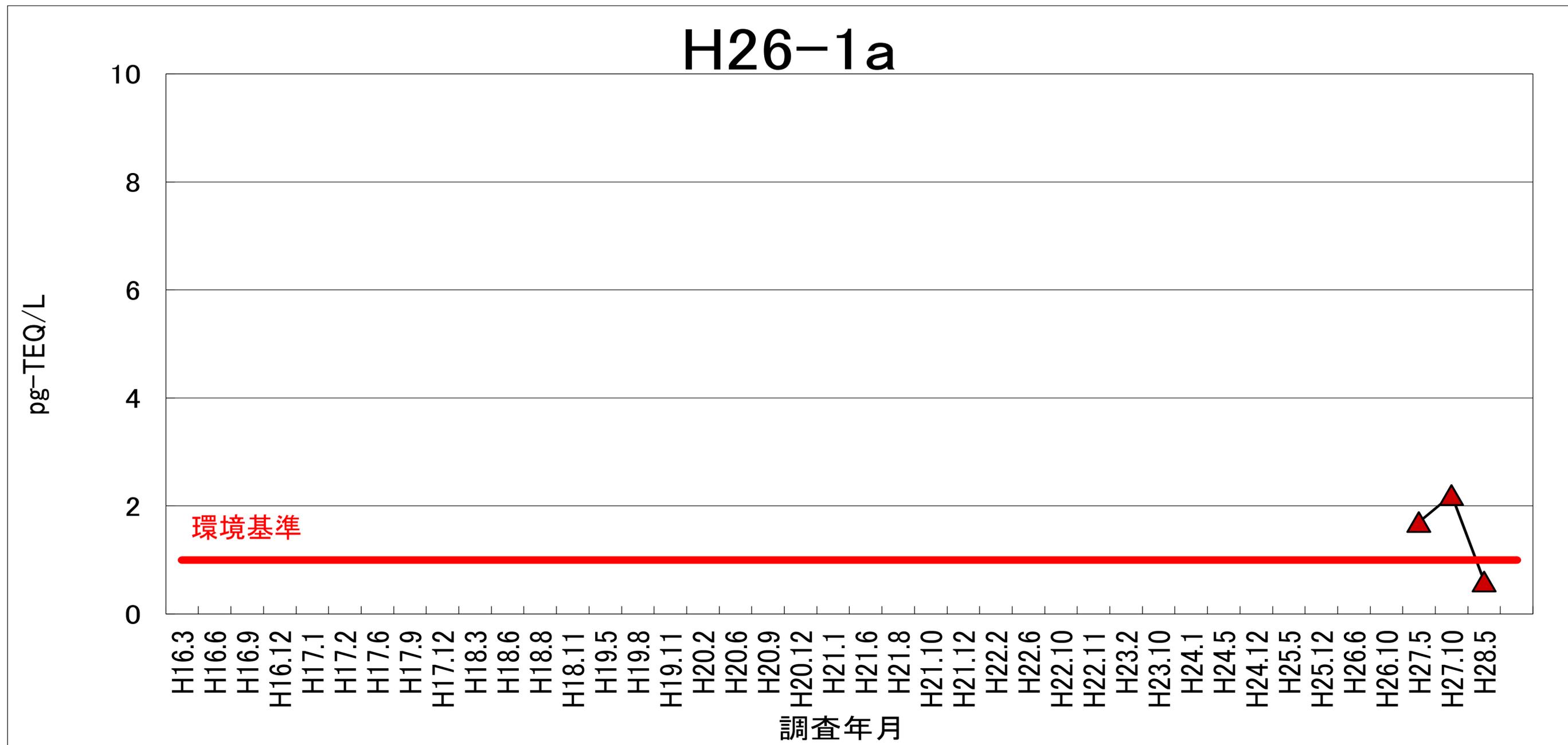
H17-19



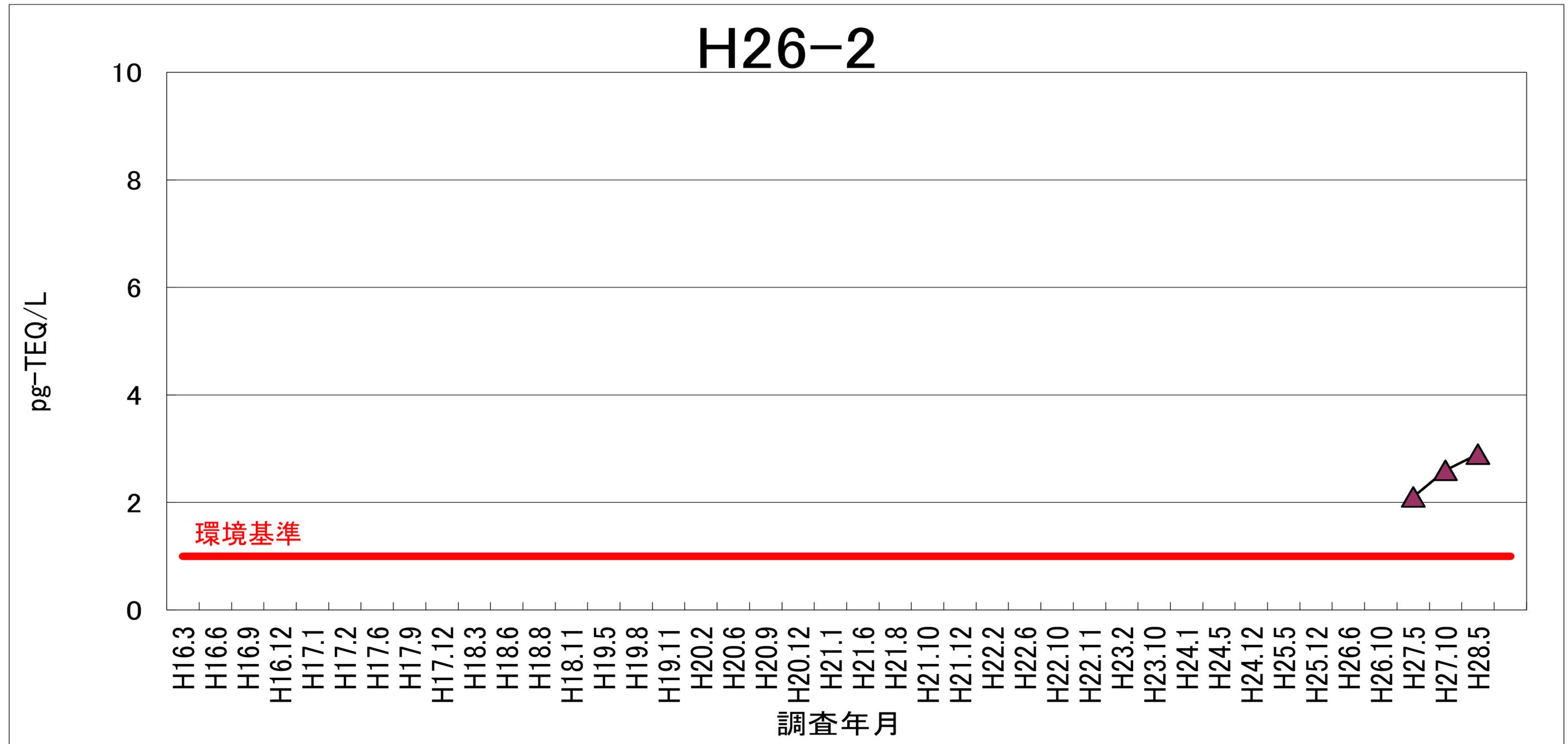
ダイオキシン類(地下水:10地点)測定結果の推移



ダイオキシン類（地下水で濃度が高い地点①）



ダイオキシン類（地下水で濃度が高い地点②）



地下水から検出されたダイオキシン類の由来について

H26-1a,H26-2で基準を超過するダイオキシン類が検出



①処分場内と外の比較

処分場外

H26-1a,H26-2: 農薬由来

処分場内

H16-5: 燃焼由来

②処分場周辺の 土壌について

処分場周辺の**土壌**から

過去に使用された**農薬由来**と考えられる

ダイオキシン類が検出

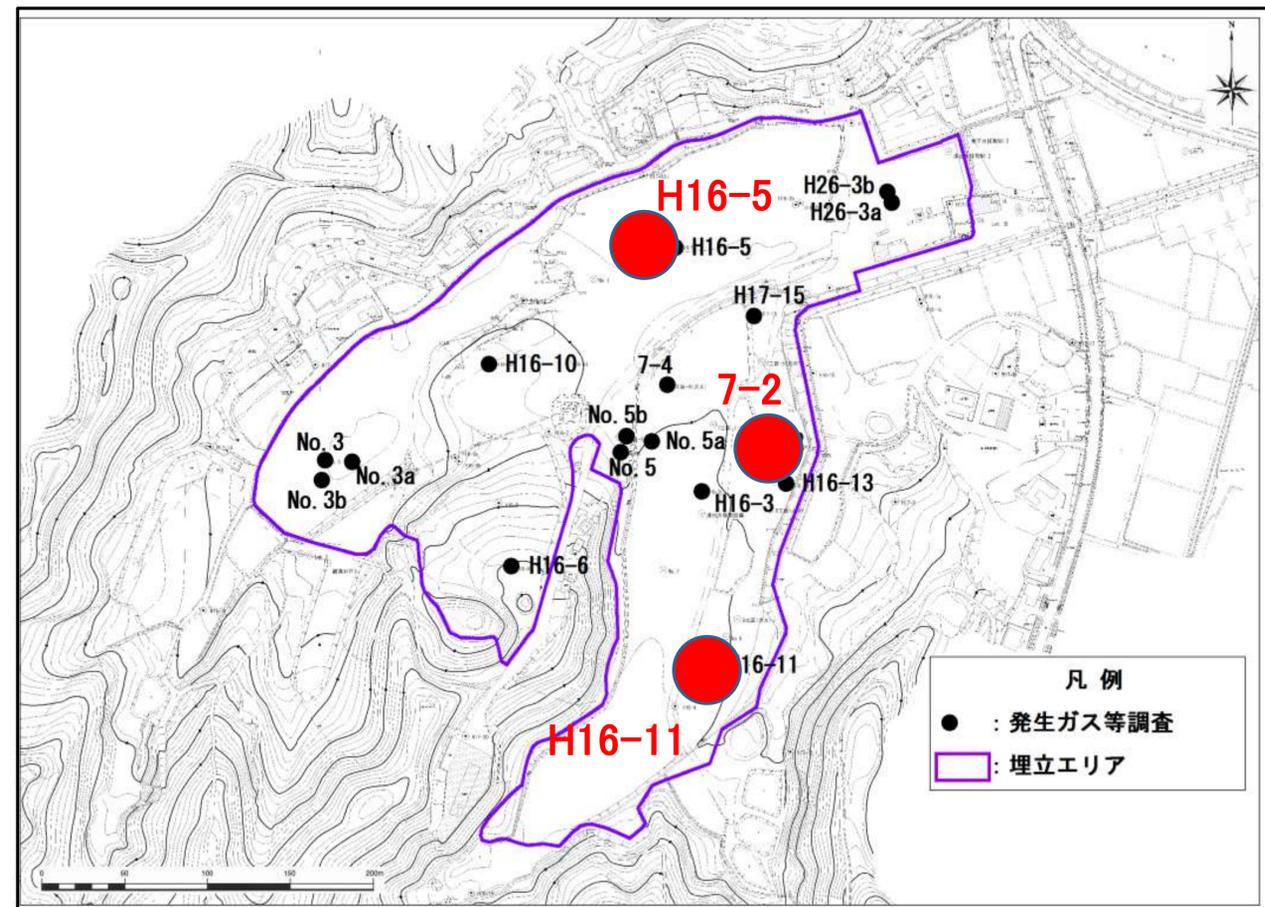


基準超過の原因は、過去に使用された**農薬由来の**

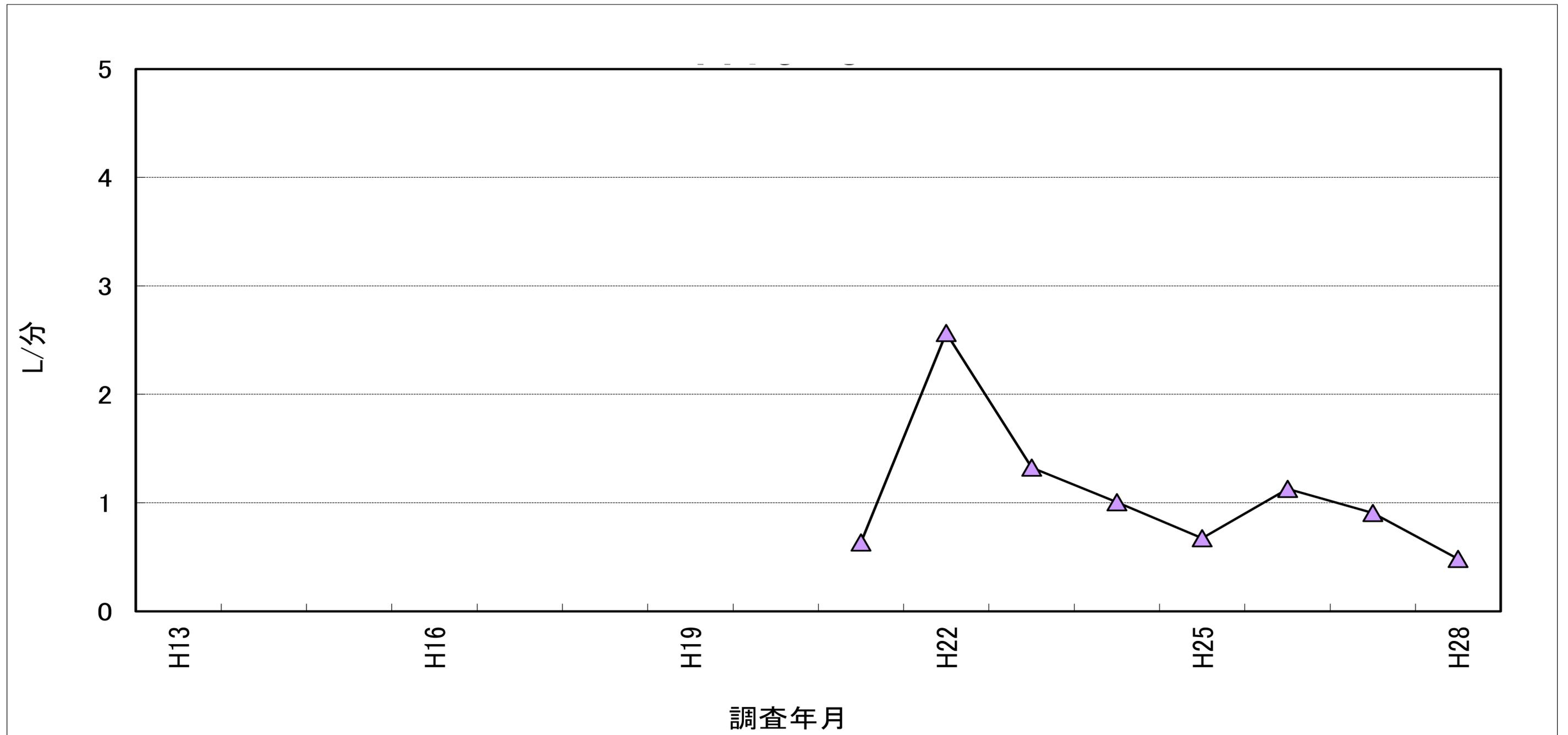
ダイオキシン類を含む土粒子が混入した状態で水を採取したことによるもの

4 発生ガス等調査

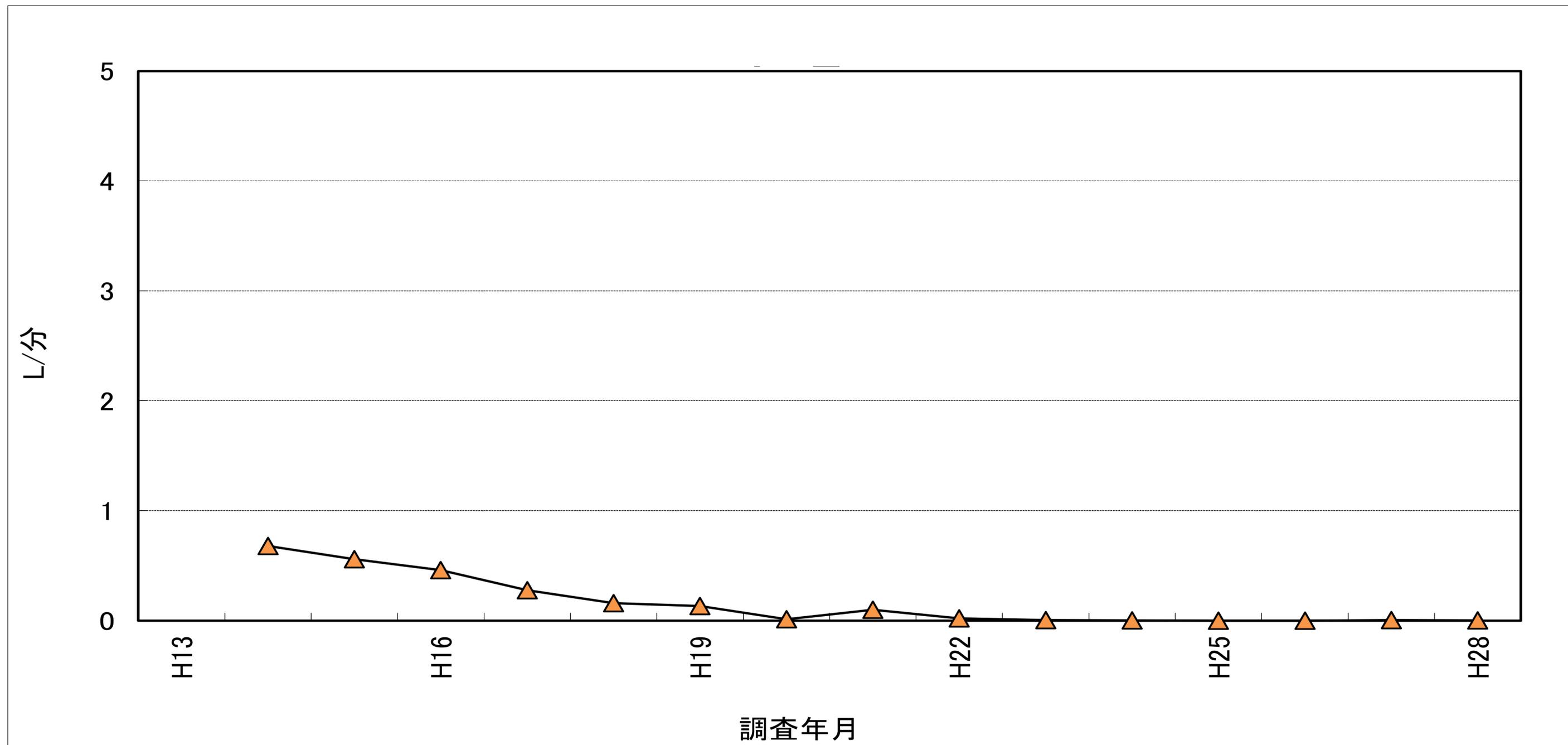
- 処分場の状況を確認するため、処分場内の観測井戸を用いて、毎月発生ガス等の調査を実施
- 調査地点：17地点(平成26年度以降)
- 調査項目：発生ガス量，硫化水素濃度を含む7項目



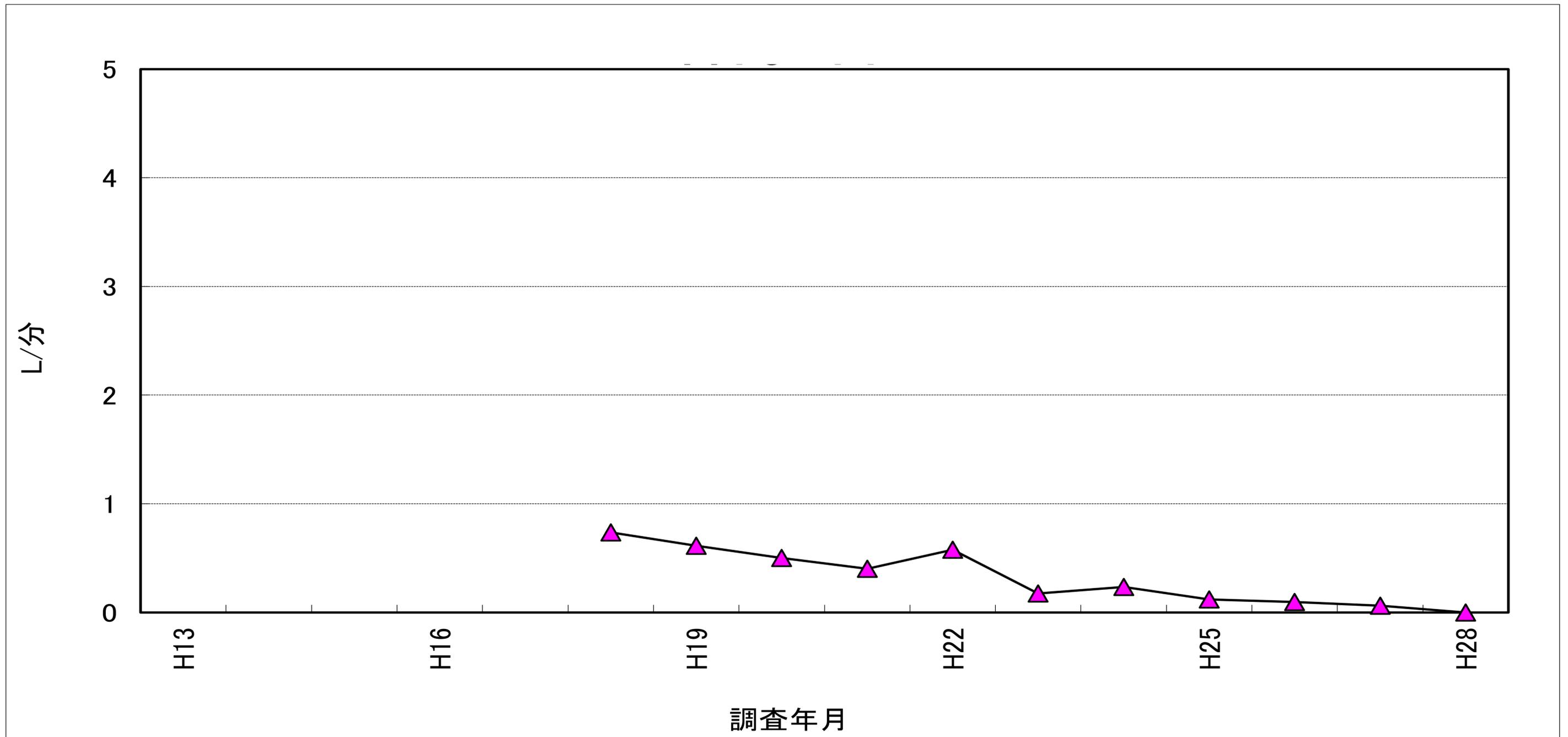
発生ガス量(年平均)(H16-5)



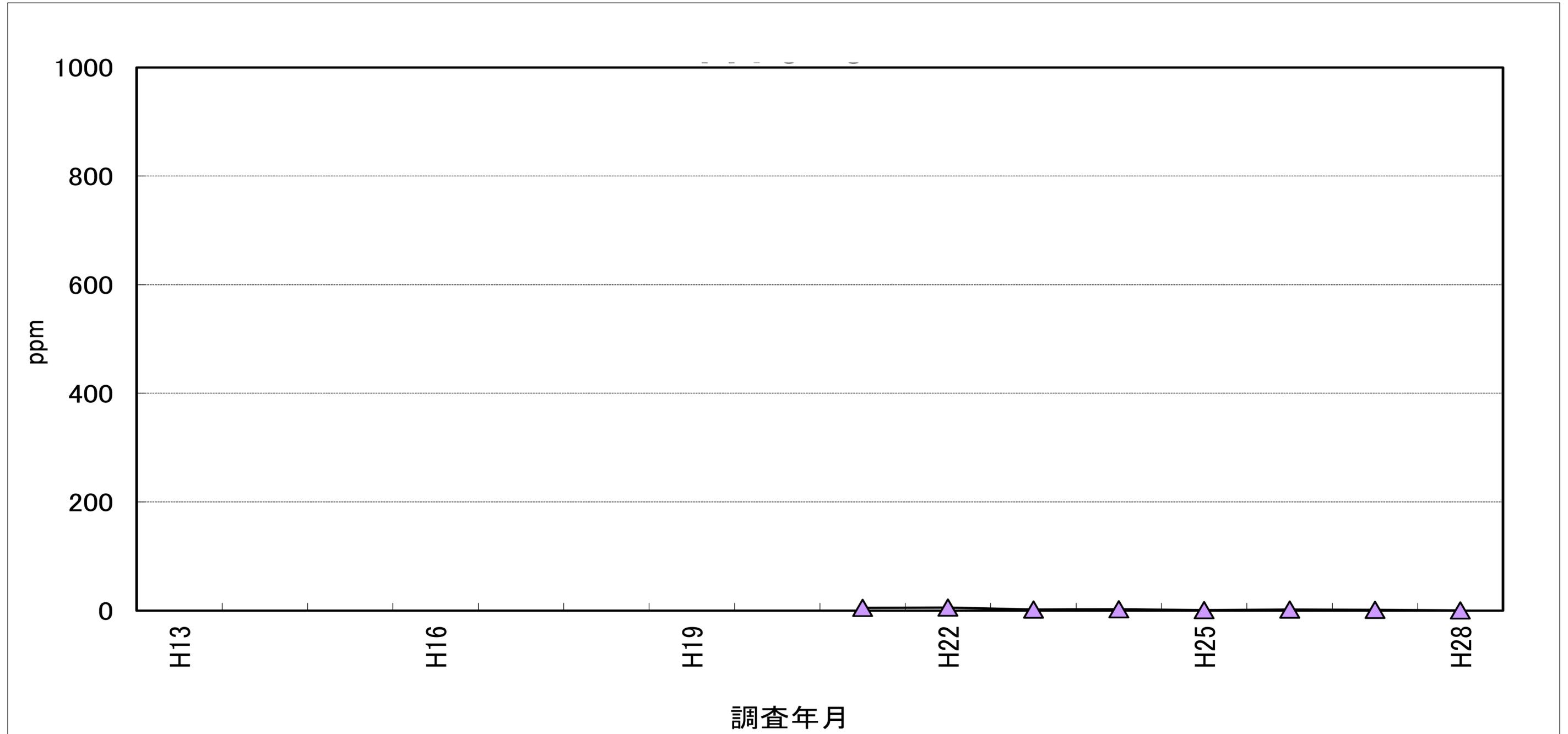
発生ガス量(年平均)(7-2)



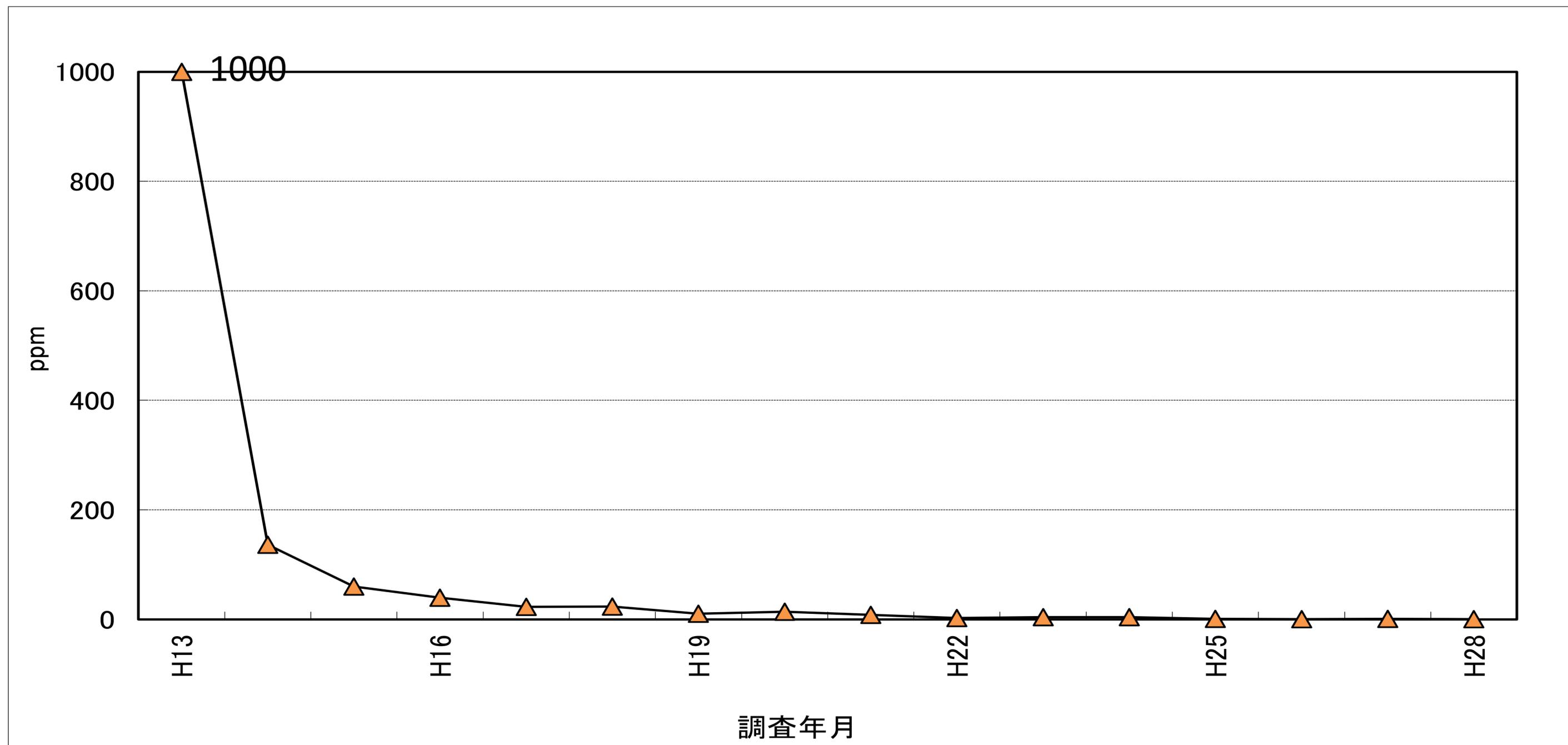
発生ガス量(年平均)(H16-11)



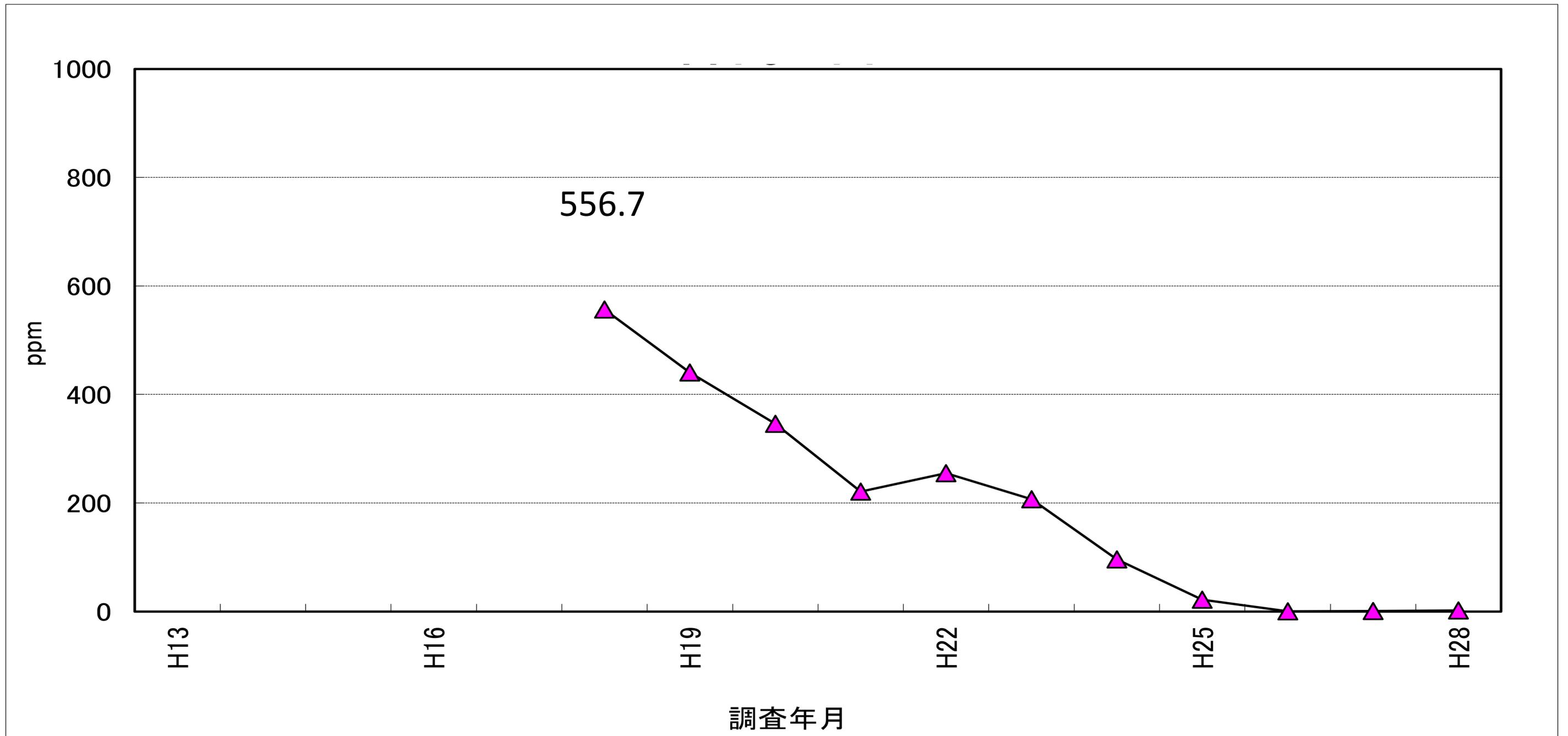
硫化水素濃度(年平均)(H16-5)



硫化水素濃度(年平均)(7-2)



硫化水素濃度(年平均)(H16-11)



5 地中温度調査

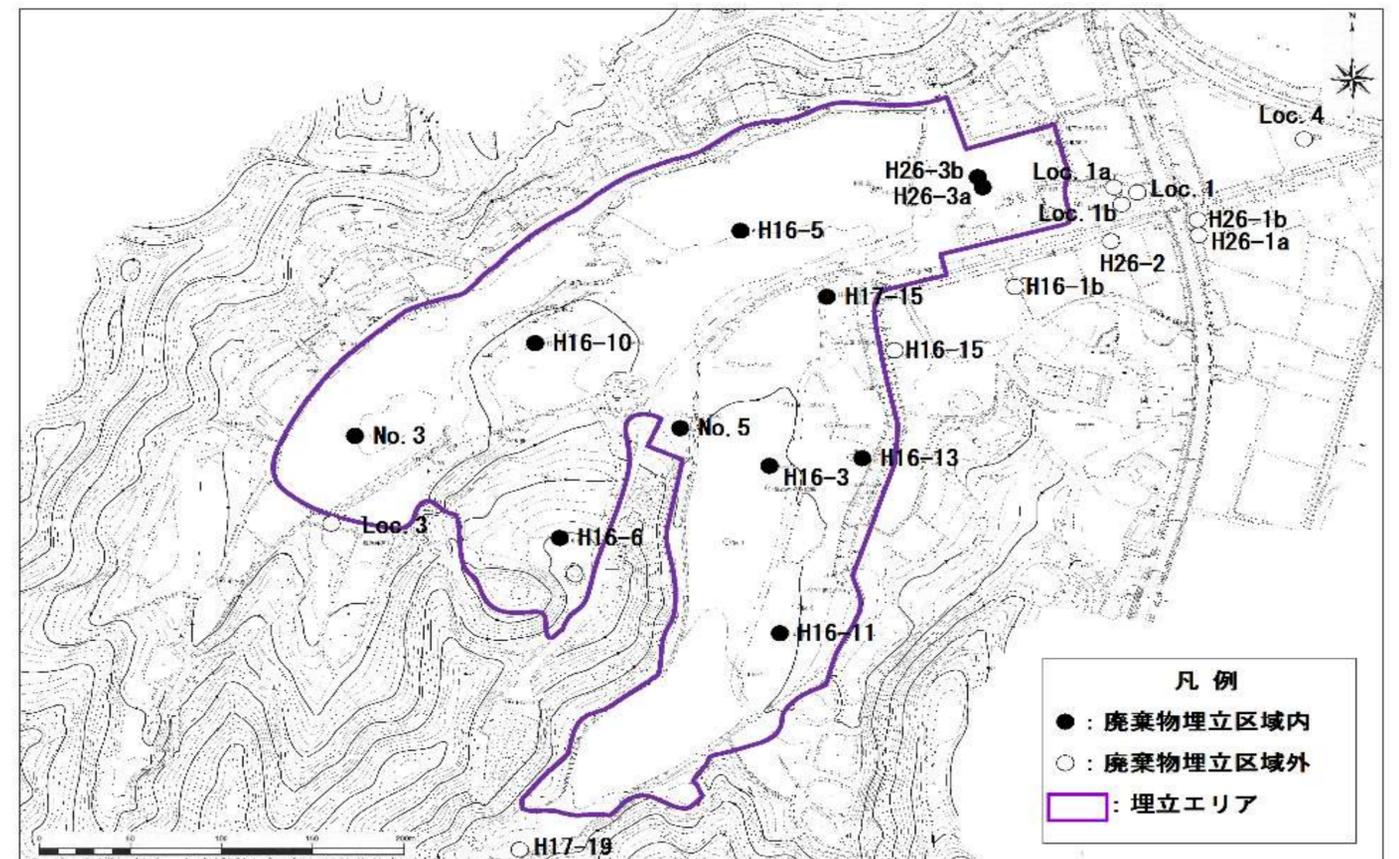
- 廃棄物埋立区域内外の地中温度の変動状況を把握するため、観測井戸を用いて、孔内温度を硫化水素等の発生ガスについて年4回調査を実施

- 調査地点：22地点(平成26年度以降)

- 調査項目：温度

- 調査結果：現在も埋立区域の内部は、周囲より温度が高く、有機性廃棄物の分解反応が継続していると思われる。

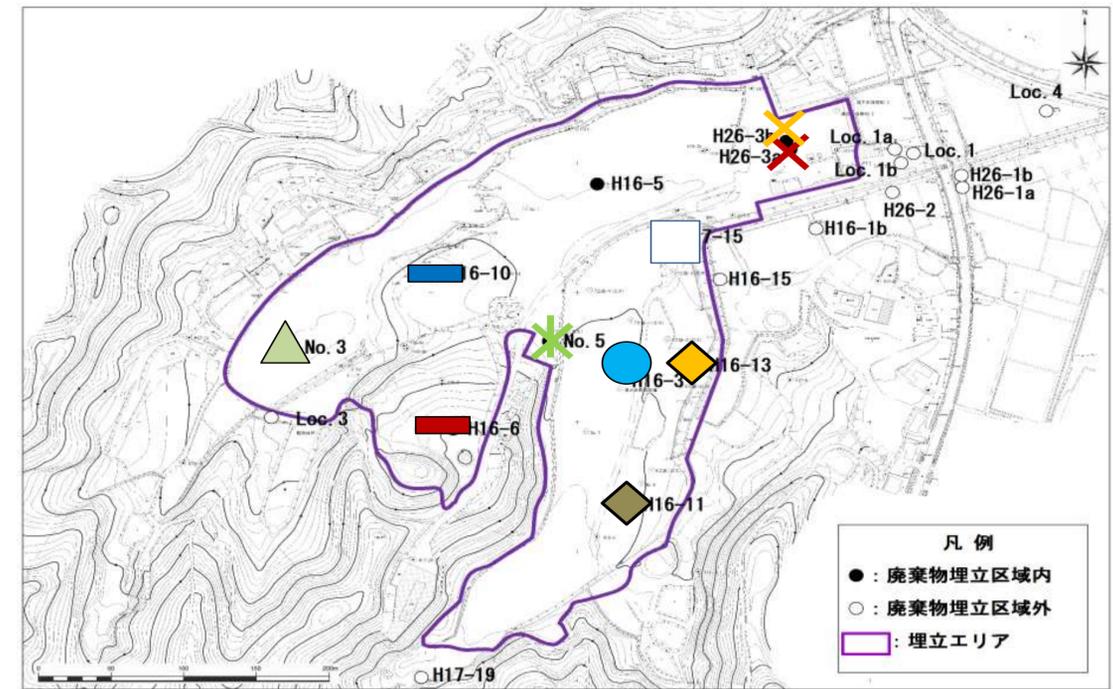
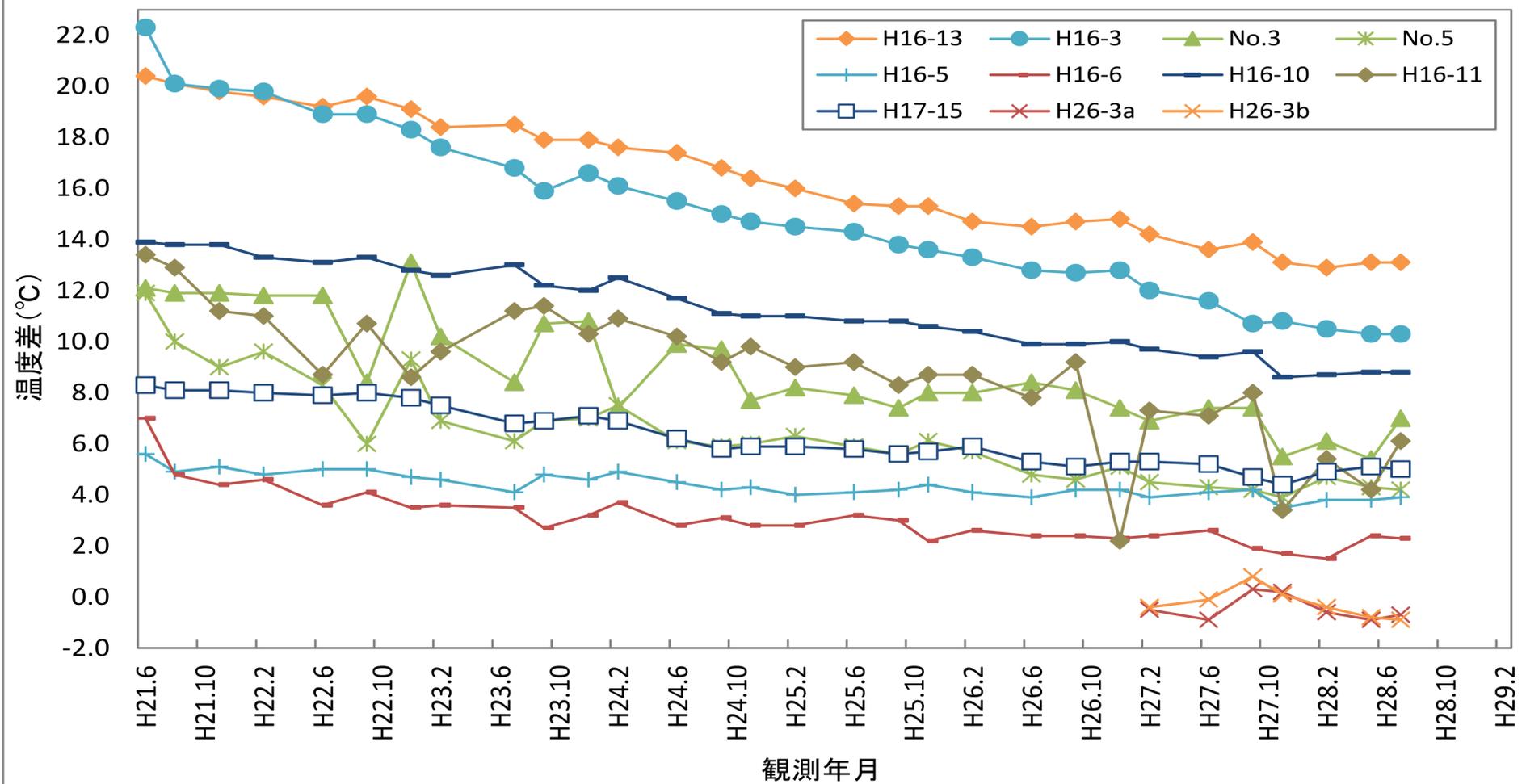
しかし、以前と比較して温度が低下しており、分解反応は以前と比べて収まってきている。



5 地中温度調査

- 埋立区域の内部は、周囲より温度が高い。
- 周辺との温度差は、緩やかな縮小傾向にある。

場外対照地点(Loc.1a)と処分場内の温度差



IV 評価委員会の答申

- 1 モニタリング結果の総合評価に関する
審議状況
- 2 答申（モニタリング結果の総括）
- 3 答申（浸出水拡散防止対策の必要性に
関する評価等）

1 モニタリング結果の総合評価に関する 審議状況

浸出水拡散防止対策の要否判断のため、評価委員会に諮問し、3回の評価委員会で審議が行われた。

- ・第22回：H28. 6.10 <諮問>
- ・第23回：H28.10.31
- ・第24回：H29. 1.12 <答申>

○平成28年10月31日は、村田町で開催した。

○平成29年1月12日に評価委員会から答申を受けた。

2-1 答申（モニタリング結果の総括）

処分場で発生しているガスの量，ガスに含まれる硫化水素の濃度は
減少・低下又は横ばいの傾向

処分場内の地中温度はすべての調査地点で緩やかに低下



埋立廃棄物の分解反応が収束に向かっている

処分場で発生している硫化水素が処分場周辺的生活環境に及ぼす影響は
極めて小さい状況にある

2-2 答申（モニタリング結果の総括）

場内浸透水

一部の測定項目※で基準値を超過している状況にある
濃度推移はやや低下か横ばい傾向にある

※鉛, 砒素, BOD, ふっ素, ほう素, ダイオキシン類, 1,4-ジオキサン

場外周辺地下水

処分場の影響で地下水環境基準を超過するレベルに汚染される状況は
認められない
濃度推移は横ばい傾向にある。

3 答申（浸出水拡散防止対策の必要性に関する評価等）

浸出水拡散防止対策の実施基準

場内保有水(浸透水)の汚染濃度が上昇し、かつ、場外周辺地下水で地下水環境基準を上回る物質が継続的に確認されるおそれが高いと判断される状況になった場合



現在の場内保有水(浸透水)及び場外周辺地下水はこのような状況になく、浸出水拡散防止対策は実施する必要はないと判断される

3 答申（浸出水拡散防止対策の必要性に関する評価等）

処分場は、埋立終了から15年経過

これまでのモニタリング結果の推移



将来的に生活環境保全上の支障が生ずる可能性は
低いと考えられる

3 答申（浸出水拡散防止対策の必要性に関する評価等）

依然として ガスの発生が継続

場内浸透水が基準値を満たさない状況にある



処分場が廃止基準を満たすまでの間は

処分場の維持管理と環境モニタリングを継続する

仮に、生活環境保全上の支障が生ずるおそれが高いと判断される状況になった場合は、その防止措置を講ずる

IV 今後の処分場対策について

評価委員会の答申を踏まえ、今後の処分場対策を整理

1 浸出水拡散防止対策

処分場の現状から必要ないと判断し実施しない

2 実施計画

浸出水拡散防止対策を実施しないため、
実施計画は平成28年度で終了する

3 今後の処分場対策

処分場が廃止されるまでの間は、県が処分場対策を実施

処分場対策の内容

(1) 維持管理

各種設備の保守管理, 覆土の補修, 清掃・除草の実施

(2) モニタリング

硫化水素連続モニタリング, 浸透水及び地下水水質調査
発生ガス等調査等の実施

(3) 支障除去対策

モニタリングの結果, 生活環境保全上の支障が生ずる
おそれが高いと認められるときは, その防止措置の実施

(4) 評価委員会の開催

モニタリング計画及びモニタリング結果に係る意見を聴く
ため, 定期的な評価委員会の開催